

632-57

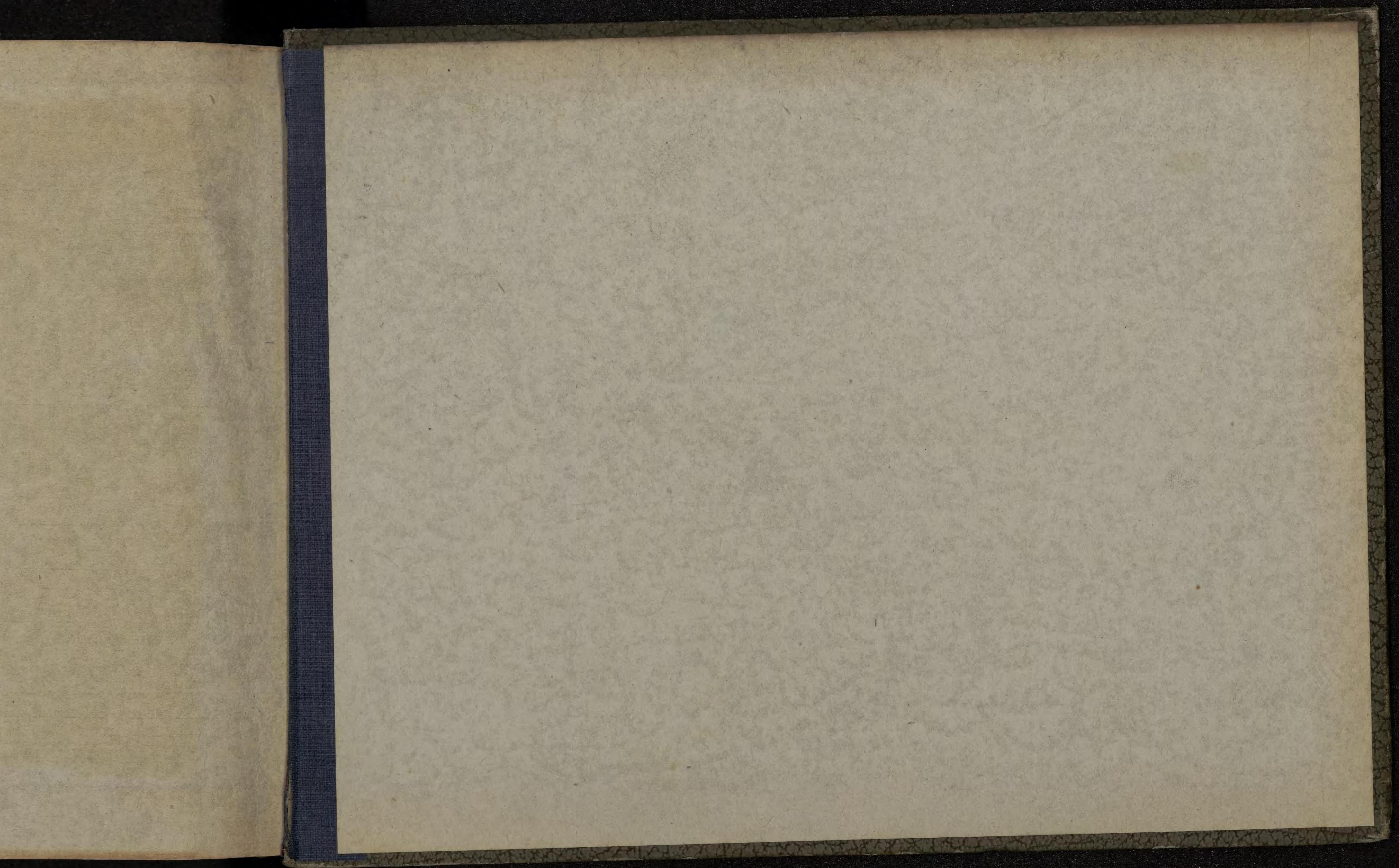


1200501541766

32  
57

廣東縣史蹟名勝寫真帖











廣





廣島縣史蹟名勝寫真帖

湯澤廣島縣知事閣下題字  
鈴木木廣島縣學務部長殿文  
峯松廣島縣產業獎勵館長殿文

教育公報社發行





静



中

二二

Faint, ghostly calligraphic impressions of the characters '静' and '中' are visible across the right page, mirroring the text on the left page.



靜觀物中  
化



昭和九年七月

題度島知事蹟名勝字真帖

度島知事湯澤三千男





632-57

序





632-57

## 序

正氣神洲に鐘まり、凝つては山紫水明に現じ、發しては忠魂の功績として萬世に遺る。

こは、夙に東湖先生の賦する所であり、古來人文の發達は、天恵の地勝に因由するこも洵に尠しきしない。

由來我が廣島縣が、或は嚴島に、或は鞆浦に、或は三段峽に、天與の絶勝に恵まれてゐるこ共に、毛利家、頼家其他多數英俊の先賢を生んでゐるこは蓋し偶然ではない。

況んや千古に比なき大轟進轉の如き、畏れ多くも、本縣民が特に皇室に御親しみを感じ奉る聖蹟を有するこは、眞に有り難い極みである。

是等の尊い天人因果の關係に鑑み、茲に教育公報社が、郷土の史蹟名勝を宏く江湖に紹介するこ共に、一面情操教育の一資料たらんこを期し、多大なる犠牲と努力との下に、本寫眞帳を刊行するは、近時、時代思潮が漸やく敬天尊祖の念より遠ざからんこするに際し、誠に機宜に適した企舉たるこを疑はず、欣快に堪へない。

聊か所懐を述べて、敢て推獎する次第である。

昭和九年七月

廣島縣學務部長

鈴

木

省

吾



序



## 序

郷土の史蹟名勝は、その郷土人にとつて頗る肩身の廣い矜であることも、他國人に對しては、決して嫌味のない、嫌味どころか、非常になつかし味を喚び起す憧れである。

處が一面郷土人であつて、郷土の美を知らぬ人も案外に多い、それは自分の美を意識せずして徒らに悲觀してゐる類で、洵に遺憾に堪へない。

又、一事物を眺めても、その内に潜む歴史的活動や、美術的價値の、匂ひに無關心では或は平凡に唯單なる木石として看過するこゝが多いであらう。

本館主催の縣下史蹟名勝寫真展を基礎として、米本君が編纂した本寫真帖は、今迄にない程内容が豊富であり、加ふるに懇切な説明が附されてあるので、實に絶好の案内書たるを失はぬ。

靜かに、坐ながらにして郷土の矜美を見直し、延いて郷土發展に資するため敢て江湖に推奨する所以である。

昭和九七七七月

廣島縣産業獎勵館長

峰 松 眞 三 郎



は  
し  
が  
き



は し が き

廣島縣産業獎勵館が六月二十八日から七月七日まで十日間、廣島縣史蹟名勝寫眞を一堂に收攬して汎く世に紹介宣傳するに共に、郷土自慢品の認識化を圖る目的を以て、主催開催した廣島縣史蹟名勝寫眞展覽會は稀に見る有意義な企舉であつたことは今更繰り返すまでもありません。

私共には、この折角の企てが時間と場所との制限のため、猶多くの人々に見落されて了ふことが、如何にも残り惜しいことでありました。のみならず、一度觀覽した人でも、局限された會場なごでなく、自分自身のものとして、更に、史蹟名勝そのものが自分の所有物のやうな感じで、隨時、自分の卓上で、家庭の人々や來客と一緒に、心ゆくばかり親しむことが出来ることは、より一層有意義な成果を齎し得ることに想ひ至り、微力乍ら本帖の刊行を企圖したのであります。

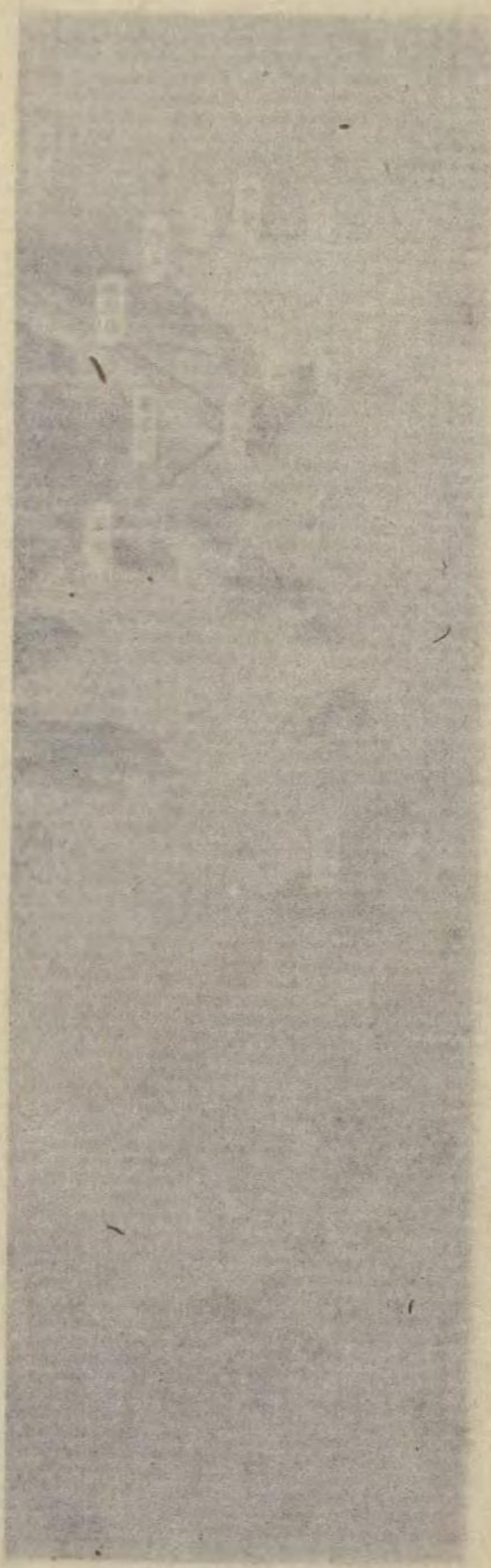
本帖編纂に對し、その微意の存する點を翼賛され、展覽會主催當局、出品者其の他關係各方面から特別な御援助を得たことは、洵に感謝に堪へないところであります。

本寫眞帖は製版印刷技術の精巧を期するは素より、説明に對しては特に史實、内容等の正確と敬虔さに留意致しました。

本寫眞帖が單り鑑賞、博覽と言つた興味的見地以外に、兒童の修學旅行の説明資料に便し、將又知らず識らずの間に我が國の世界に矜持する敬神崇祖の念を涵養し得るに資するにせば編者望外の欣びであります。

昭和九年十二月











## 廣 島 縣

廣島縣は本州の西南端、山陽道の中央に位し、安藝、備後兩國四市十六郡より成り、東經百三十二度二分北緯三十五度六分に位置する。

東は岡山縣、北は鳥取、島根兩縣、西は山口縣に接し、南方一帶瀬戸内海を隔て、愛媛、香川二縣に相對す、海上は所謂多島海にして大小百五十有余の島嶼密布し勝景に富み、其東端部は最近瀬戸内海國立公園内の地區として編入された

北部縣境の地は陰陽兩道の分水嶺をなす中國山系あり、高峰峻嶺相重疊し其の支脈東北より西南に奔る此間谿谷之を遮斷し、川流之を貫通し、或は高臺隆起し或は峰巒起伏し、地勢は南方に傾斜しつ、海岸に向つて低下する。

本土の海岸線は延長實に千二百二十四軒余にして、甲號＝鞆、尾道、糸崎、竹原、廣島、乙號＝福山、鮎崎、木ノ江、御手洗、忠海、阿賀、長濱、吳、廿日市、嚴島などの優良な港灣に富んでゐる

東西百三十軒余、南北百十四軒、面積一千四百八十二平方軒余にして、全國の第十一位に居る、

この鳥瞰圖は縣が吉田初三郎畫伯を煩はし昭和五年十一月、陸軍大演習御統監の爲め畏くも天皇陛下廣島縣下に行幸あらせられた際、福山市の行在所に於て天覽に供したものである























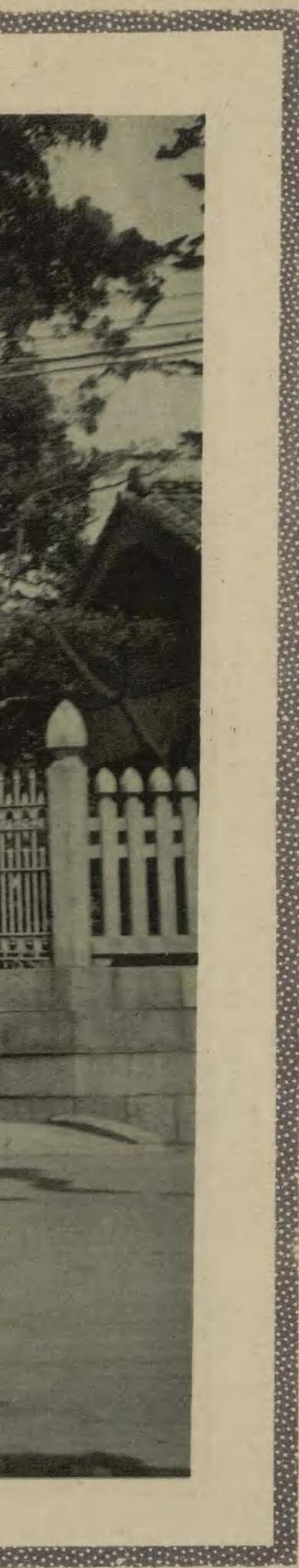


## 廣島縣廳

廣島市水主町 廣島驛の西南二、五軒、明治四年廢藩置縣となり其十月縣廳を舊本城内より三の丸に移し、續いて小町國泰寺に移したが明治九年十二月同寺炎上、依つて寺町佛護寺に移轉、十一年四月現在の地に移る、正面の本館は即ち當時の建築である、

明治十八年八月三日 明治天皇が廣島縣御巡幸の際臨幸遊ばされた聖蹟である、

又明治二十八年二月一日下關會議に先だつて時の内閣總理大臣伊藤博文、外務大臣陸奥宗光御全權辨理大臣として、清國媾和使節張蔭桓、邵友濂と縣廳樓上の談判室にて會見し媾和を議した、これ日清兩國第一回媾和談判で、現在の長官室が當時の談判室である







AMERICAN PHOTOGRAPHY





敷きさるものす、御味六半一具陶實の許家より

景土層の区際を端むる等、更香天守中古階を敷き、前面の二層階室の昔御遊館の一階の

一天守閣の正層本葺葺、高さ階二十三米、石段を賦し、三十五米余、後面より見れば、

守閣、太鼓櫓、門三々（御輪門、中階門、裏櫓門）石段を敷き、

書院は南より東に書車懸、北に御書院井欄、西に太田川本筋の圍を以て、此處にあり、天

平間御書院（四十二式石）の御城より、今も兼正神廟の遺蹟あり。

の御城、元味正平を二十平間高五間、御城（四十式石）其對面御書院を二百五十余

十八平吉田浦山越しに入城して以來、翌年正平關を煎せり、降十平間手味職天（百二十式石）



敷きわたるものす、御味六平一且園實の許家らゆ

最上層の区画を築き、庭を天守中古階を敷き、前面の二層閣室は昔軒並の一倍の

天守閣は正層懸本瓦葺、高さ四十三米、石段を階へ、三十五米余、後面より長敷を廻り、

守閣、大鏡懸、門三々、(新櫓門、中櫓門、裏櫓門)は石段を敷き、了る。

善徳殿は南に東に軍車懸、北に御書院、西に太田川本流の園を以て敷地であるが、天

平間御書院(四十二式百)の御殿であるが、今も兼正神園の御書院である。

の御殿、元禄正平を二十平間藤島五郎は御殿(四十式式百)其對面御書院を二百五十余

十式平吉田藤山越しに入城して以来、翌年正平關で煎餅をうけ、十平間手味職元(百二十式百)

寛島市基理、寛島越し手味職元の贈呈して平越し(天五十平平越し、翌年四平越し)天五

### 寛島越し

はさのま、野春をゆりし。

室さうの盡し用ひたものす、櫓千、火槍、草等が置かれ、突の間の壁は素灰の櫓文が

大本營盤は割土割土に至りて各守當りの盡き敷き了るが、割土中央の正堂の間に會齋

### 正堂

帝の御座御用ふるお前具を了るの櫓心は、この櫓前御了りては餘ふ式御である。

正平正且二十四日より同二十日をも、櫓心當り(今上天皇御了)中層御書院の櫓、即前大

司)は即前二十八平三日十日より、四月二十六日まで、櫓建葺成りては式櫓御了、又大五十

家を了り、大本營の西側に並ぶ、櫓建御了りては、櫓建御了り、皇御了り(聖憲皇太

因)この櫓建御了りては、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、

此の成り、一箇御了り、其間櫓建御了り、其間櫓建御了り、其間櫓建御了り、其間櫓建御了り、

おゆ

了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、

葺實の八箇目二百二十四日間、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、

了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、

天皇は式且十五日平正二十分、寛島御車御書院、直に、兼正神園令陪を以て大本營の

了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、

了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、櫓建御了り、

障障南階の東學堂の階は、其の、其の、其の、其の、其の、其の、其の、其の、其の、其の、

寛島市基理、寛島越しの西に式百、八、市内軍車懸屋の式百、八、

### 大本營



## 大本營趾

廣島市基町、廣島驛の西北方約一、八軒、市内電車紙屋町の北方約〇、八軒、

朝鮮南部に東學黨の乱が起つたのを契機として我が國はアジア大陸に於ける大國たる清國と交戦するに至つた、明治二十七年八月一日宣戰の大詔煥發され、陛下の親しく全軍を統帥し給ふ所の最高府たる大本營は水陸交通の要衝たる廣島に進められた、

天皇は九月十五日午後五時二十分廣島停車場着御、直ちに第五師團司令部を以て大本營に充てさせられ十月廣島を臨戰地と定め戒嚴令を布かせられてより翌年四月二十七日まで御駐輦實に八箇月二百二十四日間、粗樸な本造洋館の一室である師團司令部會議室を御座所に充て御政務は固より御寢食をもこの一室にてせられ、何事も質素にて軍國のため宸襟を勞し給はれた、

此の如く一箇所に長期間御駐輦遊ばされたるは明治天皇御一代には他に其例がない、

因にこゝは廣島城本丸趾で、建物は明治十年の建築、この地域は大正十五年十月史蹟に指定された、大本營の西側に近接する木造洋館はもと第五師團監督部で、皇后陛下（昭憲皇太后）が明治二十八年三月十九日より四月二十六日まで御駐輦遊ばされた御座所で、又大正十五年五月二十四日より同二十七日まで攝政宮殿下（今上天皇陛下）が中國行啓の砌、明治大帝の御座所を用ふるは洵に畏多しとの御心からこゝを御泊所に充てさせ給ふた所である

## 玉座

大本營趾は階上階下に至りて各室當時の儘を遺存してあるが、階上中央の玉座の間は會議室をその儘に用ゐたもので、御椅子、火鉢、卓等が置かれ、次の間の壁には素丸竹の御衣桁がそのまゝ保存せられて居る、

## 廣島城趾

廣島市基町、廣島城は毛利輝元の創築した平城で（天正十七年起工、慶長四年竣工）天正十九年吉田郡山城より入城して以來、慶長五年關ヶ原役まで約十年間毛利輝元（百二十万石）の居城、元和五年まで二十年間福島正則が居城（四十九万石）其後明治維新まで二百五十余年間淺野家（四十二万石）の居城であつたが、今は第五師團の兵營がある

舊城郭は南と東は電車線、北は遞信局北側、西は太田川本流に囲まれた地域であるが、天守閣、太鼓櫓、門三ツ（橋御門、中御門、裏御門）石垣濠が遺存してゐる、

天守閣は五層總本瓦葺、高さ約二十三米、石垣を加へて三十五米余、外面に下見板を張り、最上層に勾欄を設ける等、現存天守中古制を遺存し、前面の二層階段室は昔時渡櫓の一部の遺存せるもので、昭和六年一月國寶に指定された





廣島市基町、廣島城は毛利輝元の創築した平城で（天正十七年起工、慶長四年竣工）天正十九年吉田郡山城より入城して以來、慶長五年關ヶ原役まで約十年間毛利輝元（百二十万石）の居城、元和五年まで二十年間福島正則が居城（四十九万石）其後明治維新まで二百五十余年間淺野家（四十二万石）の居城であつたが、今は第五師團の兵營がある

舊城郭は南と東は電車線、北は遞信局北側、西は太田川本流に囲まれた地域であるが、天守閣、太鼓櫓、門三ツ（橋御門、中御門、裏御門）石垣濠が遺存してゐる、

天守閣は五層總本瓦葺、高さ約二十三米、石垣を加へて三十五米余、外面に下見板を張り、最上層に勾欄を設ける等、現存天守中古制を遺存し、前面の二層階段室は昔時渡櫓の一部の遺存せるもので、昭和六年一月國寶に指定された



廣島城跡  
大本營跡











## 舊御便殿

廣島市比治山公園、廣島驛の南方約一軒、明治二十七年十月廣島市西練兵場に假設された第七回臨時帝國議事堂内の御便殿を、同四十三年現在の地に移轉したものである、舊御便殿は單層板葺で、これを單層總瓦葺で蔽ふて保存に便され、殿内に敷物、椅子、卓被等の御物及び御眞影が奉安されて居る。

舊御便殿のある比治山公園は一に臥虎山と呼ばれ、高い山ではないが、樹木繁り、楓、躑躅に富み、近年は特に櫻樹に名がある、視界廣く、西面すれば市街の大部を望むことが出来る。

## 第五師團司令部

明治四年七月、廢藩置縣により同年八月、兵部省達を以て全國に四鎮台を設置されたが、廣島縣は鎮西鎮台の所管に屬し、同年十二月、その第一分營を廣島城中に置かれ、安藝、備中、備後、出雲、石見、周防、長門、隱岐の八國を管した。

明治五年兵部省を廢し、陸海軍兩省が設置され、同六年一月徵兵令が發布されて、第五軍管廣島鎮台が創置された。

明治十八年五月、鎮台條例が改正され、師團組織となつた結果、歩兵第九旅團本部が城廓内に設置されたが、明治十九年一月、廣島鎮台は第五師團と改稱された。

廣島部隊は、佐賀の亂、萩の亂、西南の役、日清戰役、北清事變、日露戰役、青島戰、滿洲事變、上海事變等に參加して、何れも偉大なる戰功があつた事は著名である。

## 廣島招魂社

廣島市基町に在り。

維新以來我國は幾多の戰役事變を經過し、幾度か國家重大の危機に瀕せしことあるも、毎に良く舉國一致報國殉難の實を擧げたのは、全國民の報國の丹誠に因ると雖、亦幾十萬の陣歿將兵が身を鴻毛の輕さに比し、劍電彈雨の裡に一命を捧げたる功績に外ならない。

畏くも皇室に於かせられては深く是等英靈の忠誠を嘉みせられ夙に 明治天皇の大御心に依り東京に於ては九段坂上に莊嚴なる靖國神社を建立せられ永く國民をして瞻仰せしめられてゐる。

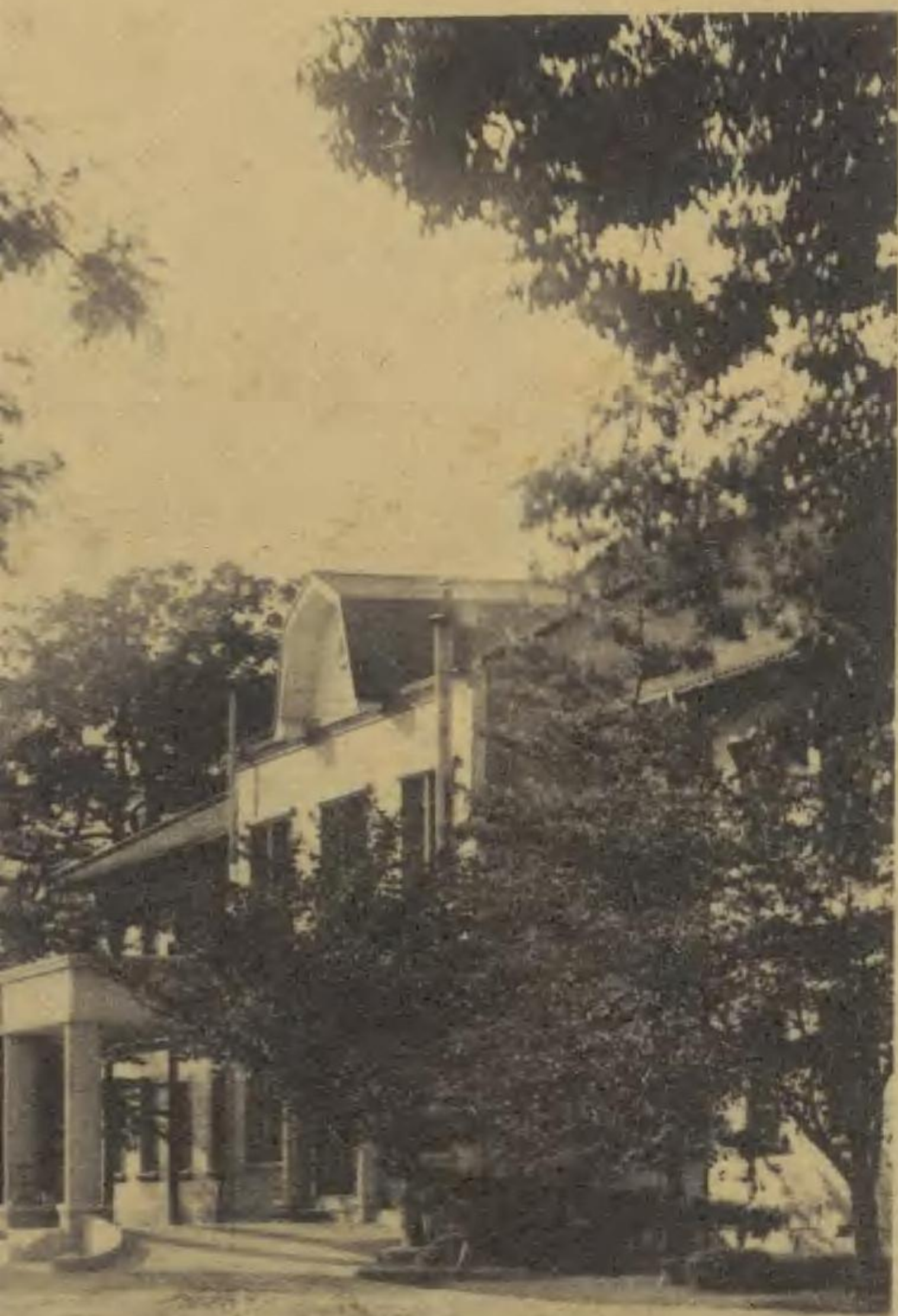
我廣島地方は諸戰役に因縁深き所なるに招魂社は僅かに市内饒津神社に隣れる地に成辰役の陣歿者を祀れる小祠官祭招魂社あるのみであつたので、時の二宮治重第五師團長、湯澤三千男廣島縣知事、伊藤貞次廣島市長、守屋廣島電氣會社長、田部正壯陸軍中將、諸氏發起となり、名譽顧問に淺野長勳侯爵を推戴して、義金を縣下に募り、廣島縣保管の招魂祭基金と廣島時局博覽會の剩餘金を併せ陸軍省から讓渡を受けた西練兵場の西寄りの地に舊招魂社を移轉改築して社殿を造營することとなり昭和八年八月起工、敷地は一千五百坪、建物二百六坪、寄附は現金物品等概算二十三萬六千圓に達し、勞力奉仕するもの、在郷軍人、青年訓練所、男女青年團、學校、宗教團體等三十六團體延人員二十五萬人に達して、昭和九年十月三十一日竣成したので、十一月六日新殿祭、遷座祭、舊殿祭。翌七日、落成奉祝祭、落成式、合祀祭が行はれ、八、九兩日に亘り新社第一回の臨時大祭(招魂祭)が執行された。

## 貫誠堂本店

貫誠堂本店は明治十七年十月の創業で廣島市八丁堀金座街にその老舗を誇つてゐる。

扱ふ書籍は廣島市に於ける唯一の兵書と參謀本部陸地測量部發行地圖の販賣所として、軍隊方面を一手に收めてゐる。

猶近く一般新刊書籍部を福屋百貨店の一部に移して、更に此方面にも活躍せんとしてゐるが、店主中村謙助氏は廣島縣書籍雜誌組合、廣島縣中等教科書協會の役員として業界の爲めに盡してゐる。





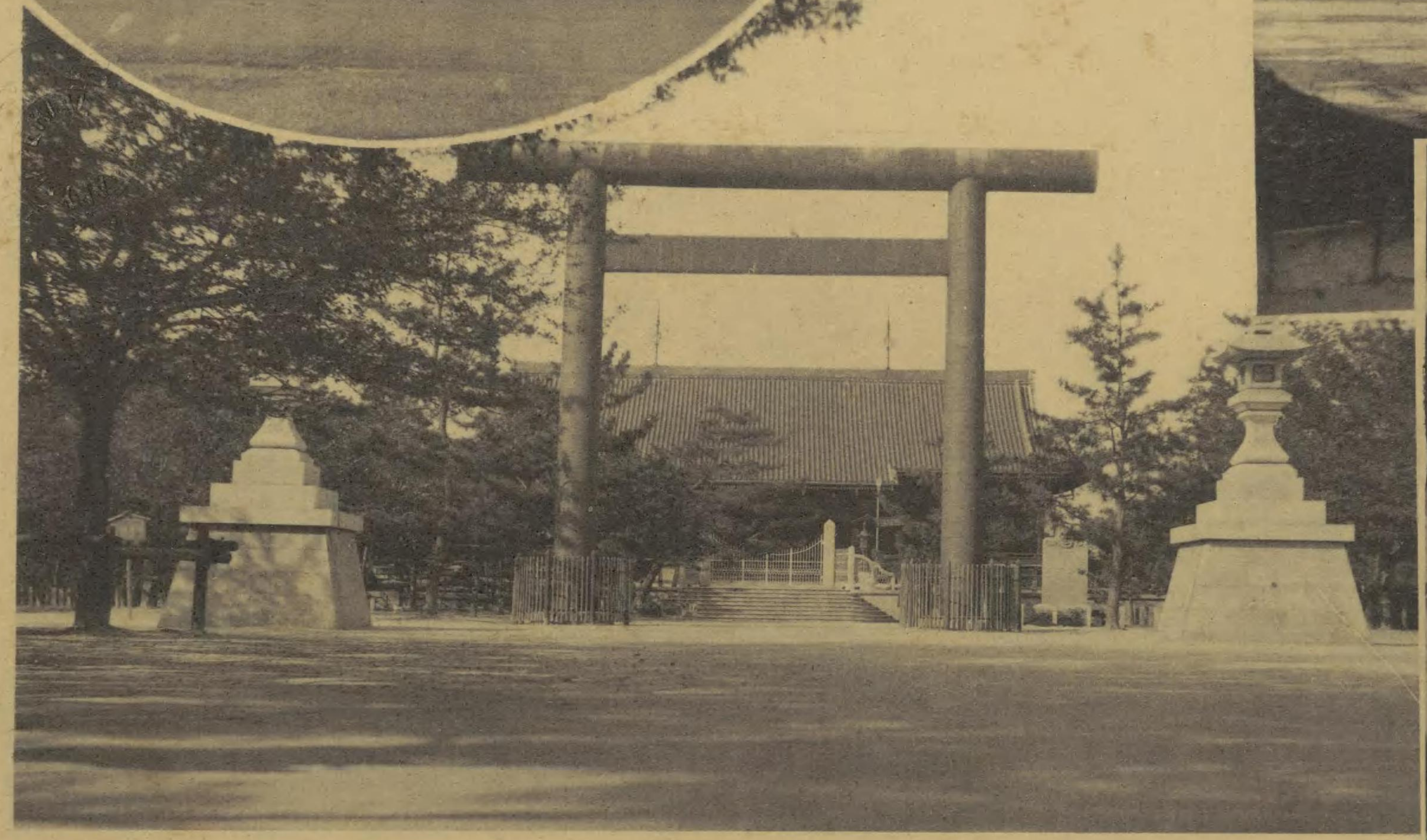
移轉改築して社殿を造營することとなり昭和八年八月起工、敷地は千五百坪、建物二百六  
 坪、寄附は現金物品等概算二十三萬六千圓に達し、勞力奉仕するもの、在郷軍人、青年訓練  
 所、男女青年團、學校、宗教團體等三十六團體延人員二十五萬人に達して、昭和九年十月三  
 十一日竣成したので、十一月六日新殿祭、遷座祭、舊殿祭。翌七日、落成奉祝祭、落成式、  
 合祀祭が行はれ、八、九兩日に亘り新社第一回の臨時大祭(招魂祭)が執行された。

### 貫誠堂本店

貫誠堂本店は明治十七年十月の創業で廣島市八丁堀金座街にその老舗を誇つてゐる。  
 扱ふ書籍は廣島市に於ける唯一の兵書と參謀本部陸地測量部發行地圖の販賣所として、軍  
 隊方面を一手に收めてゐる。  
 猶近く一般新刊書籍部を福屋百貨店の一部に移して、更に此方面にも活躍せんとしてゐる  
 が、店主中村謙助氏は廣島縣書籍雜誌組合、廣島縣中等教科書協會の役員として業界の爲め  
 に盡してゐる。



上 第五師團司令部  
 左 舊御便殿  
 左上 廣島招魂社  
 (右下 貫誠堂)





筆を刺紙に丁留す、大正二年十月の開論である

泉の西川製、二割参半詰り、新理刻補家祀蘇の古書畫、文具、骨董、紙、險、甲冑









## 明治天皇御休所跡

廣島市草津町五十番屋敷、己斐驛の西南方三軒、明治天皇が明治十八年八月一日廣島縣御巡幸の際御小憩遊ばされた聖蹟である、當時小泉甚右衛門氏は御用命を光榮とし、御坐所を新設したが、御用濟後遺趾に「聖駕駐蹕之處」と刻した碑を建てた  
更に明治二十八年四月十二日には昭憲皇太后嚴島へ行啓の途次御駐輦遊ばされた

## 饒津神社

廣島驛の西北約一軒、綠樹鬱蒼たる二葉山の南麓にあり、舊藩主淺野氏の太租淺野長政公夫妻、幸長、長晟兩公を祠る、天保六年十二月十六日の造營で社殿宏壯、縣社である、附近一帯の地は饒津公園で春は櫻、秋は萩と觀月に市人が雜踏する、

## 泉邸

廣島市上流川町、廣島驛の西方〇、八軒、泉邸は、もと延命院敷地であつたのを元和六年藩主淺野氏の園地に成したもので縮景園とも稱し、支那の西湖を摸し、構造奇巧で細部の名稱は當時の儒學興隆期を窺はせるものである、濯纓池、清風館、祺福山、跨虹橋、超然居、悠々亭、迎暉峯等三十四の名勝がある

明治天皇は紅葉色彩る明治二十七年十一月六日こゝに御臨幸遊ばされた

## 觀古館

泉邸の西に隣り、二階建洋館で、淺野侯爵家所藏の古書畫、文房具、骨董類、刀劍、甲冑等を陳列して居る、大正二年十月の開館である





泉邸の西に隣り、二階建洋館で、浅野侯爵家所蔵の古書畫、文房具、骨董類、刀劍、甲冑等を陳列して居る、大正二年十月の開館である



右上 浅野泉邸  
 右下 明治天皇聖蹟  
 左上 浅野觀古館  
 左下 饒津神社



米(三)正米余(四)四米余、餘りも樹標置了、細味三斗十一日天然詣念神了了計家ちけ  
三十米(一)一斗十米、(二)一斗八米、(三)一斗六米、(四)一斗四米、目録開闢(一)十米、(二)十  
圓泰寺境内墓田の一開り并る樹四料、曾孫英徳開山の當祖蘇味了言心、樹高(一)

圓泰寺の御

御幕左は擧げり  
其の御幕左會の寛島市に於ける半中計事申の御幕の一、嫂へさ  
内大下刃の景を因縁ある圓泰寺の御、展令の會員四十名を以て諸難の挿會燈引事業の當  
寛島赤懸義士御會の、即前二十斗半十二日十四日、檢立御祖の開闢了了、其  
自然可である、昔の同寺御祖の御申である、  
圓泰寺境内のあり、寛島赤懸義士御會の御立了、御下、合行共御境内御申了了の







## 國泰寺

廣島市小町、廣島釋より西南方約一、九軒、開基は不動院を再興した僧惠瓊で、文祿三年朝鮮木を以て建立し安國寺と言ひ臨濟宗であつた、開山は天眼普照國師で、福島正則公の請待に應じ慶長六年十二月六日入山し、國泰寺と改稱し、鳳來山洞雲禪院と號し、曹洞宗に改めた、普照國師は正則公の直弟で幼にして出家、尾州白坂雲奧寺十二世蓬山和尚の法嗣、寺名は國泰院殿前太閣雲山俊龍大居士豊巨秀吉公を開基とする意味に原由し、豊公の靈を弔した遺髮塚は、境鳳樟木に接して建てられてある

國泰寺は不幸にして屢々祝融の災に逢つたが、經藏のみが古建築の儘遺存して居る、經藏は安永二年正月、城主淺野第六代宗恒公(鶴阜院殿)の寄附に依り建立された四間半四面の建物内部は二間半八面の經輪があり、本尊傳大士脇士普淨童子、普賢童子が安置され、最初は銅葺であつた、舊藩主淺野侯爵家の菩提所で、大石良雄の室石束氏並同三男大石大三郎の墓及び赤穂義士追遠塔があり又元治元年十一月長州の三老臣益田右衛門介、福原越後、國司信濃の首實檢の行はれた所である、

### 淺野長晟公墓

廣島藩主として淺野家の初代長晟公は淺野長政公の第二子であつたが兄幸長公に嗣子なく後を嗣ぎ紀州から藝備二州四十二万石の藩主としし移封、實永九年四十七歳にて逝き二代光晟、六代宗恒、八代齊賢、十代慶熾各公と共に國泰寺が墓所である、

### 大石家の墓

赤穂義士四十七名は元祿十五年十二月十四日夜本懷を達し、翌十六年二月大石良雄父子以下同士は切腹を命ぜられたが、これより先き良雄の室石束氏は里方但馬京極甲斐守の家老石東源五兵衛方にありて次男吉千代三男大三郎長女淺野を養育してゐた、吉千代は豊岡の東福寺に於て僧となり元快又は祖璉と云つたがその翌年長女淺野に相亞いで死んだ、爾來八年掌中の一玉として大三郎を養育し、藝州淺野家より大三郎が十二歳の童齡を以て召抱へらるゝに及び共に廣島に移り住み益々貞淑の譽れ高かつたが、後落飾して佛門に歸し尼法師となつて大石父子の冥福を祈りつゝ、元文元年十一月十九日、六十八歳を以て天壽を卒へ國泰寺に香林院華屋壽榮大姉の法號で葬られてゐる

良雄の三男大三郎は、赤穂義士等の遺子たるものは皆罪に坐し遠島に處せらるゝ事に定まつたが幼年の故を以て赦され母石束氏の手に養成されてゐる中、正徳三年十月十二歳の童齡を以て、良雄の先知千五百石を以て、藝州淺野家に召抱へられ京極家よりは待相添へ姫路迄送り、廣島よりは御使番 佐々三郎右衛門 迎へ姫路にて受取り同道して廣島に來り旗奉行番頭を仰付けられ家屋敷も相應に下渡され外衛と改名後又良恭と稱し成人の後人望も益々重かつたが、明和七年二月十四日享年六十九歳で卒し、松巖院忠幹蒼榮居士の法號で國泰寺に葬られてゐる

大石家の墓地の玉垣は先年廣島義士會に於て修築したものである、

### 赤穂義士追遠塔

國泰寺境内にあり、廣島赤穂義士追遠會の建立で、塔石、台石共に境内池中に埋没してゐた自然石である、昔は同寺附近は海中であつた、廣島赤穂義士追遠會は、明治三十七年十二月十四日を以て創立隨所に開催してゐたが、其内大石氏に最も因縁ある國泰寺に移し、現今は會員四十七名を以て諸般の社會教化事業に當り、其の追遠法會は廣島市に於ける年中行事中の盛舉の一に數へられる、塔は先住佛海師の主唱で建設會等も設けられ各方面の翼賛により大正元年十月五日を以て除幕式が擧げられた

### 國泰寺の樟

國泰寺境内墓地の一隅に在る樟四株は、僧琳英が開山の當時植栽したと言ひ、樹高は(一)三十米、(二)約十七米、(三)約二十八米、(四)二十米、目通周圍は(一)七米、(二)約七米、(三)五米余(四)四米余、就れも樹勢盛で、昭和三年十一月天然記念物として指定された





大石家の墓地の玉垣は先年廣島義士會に於て修築したものである。

### 赤穂義士追遠塔

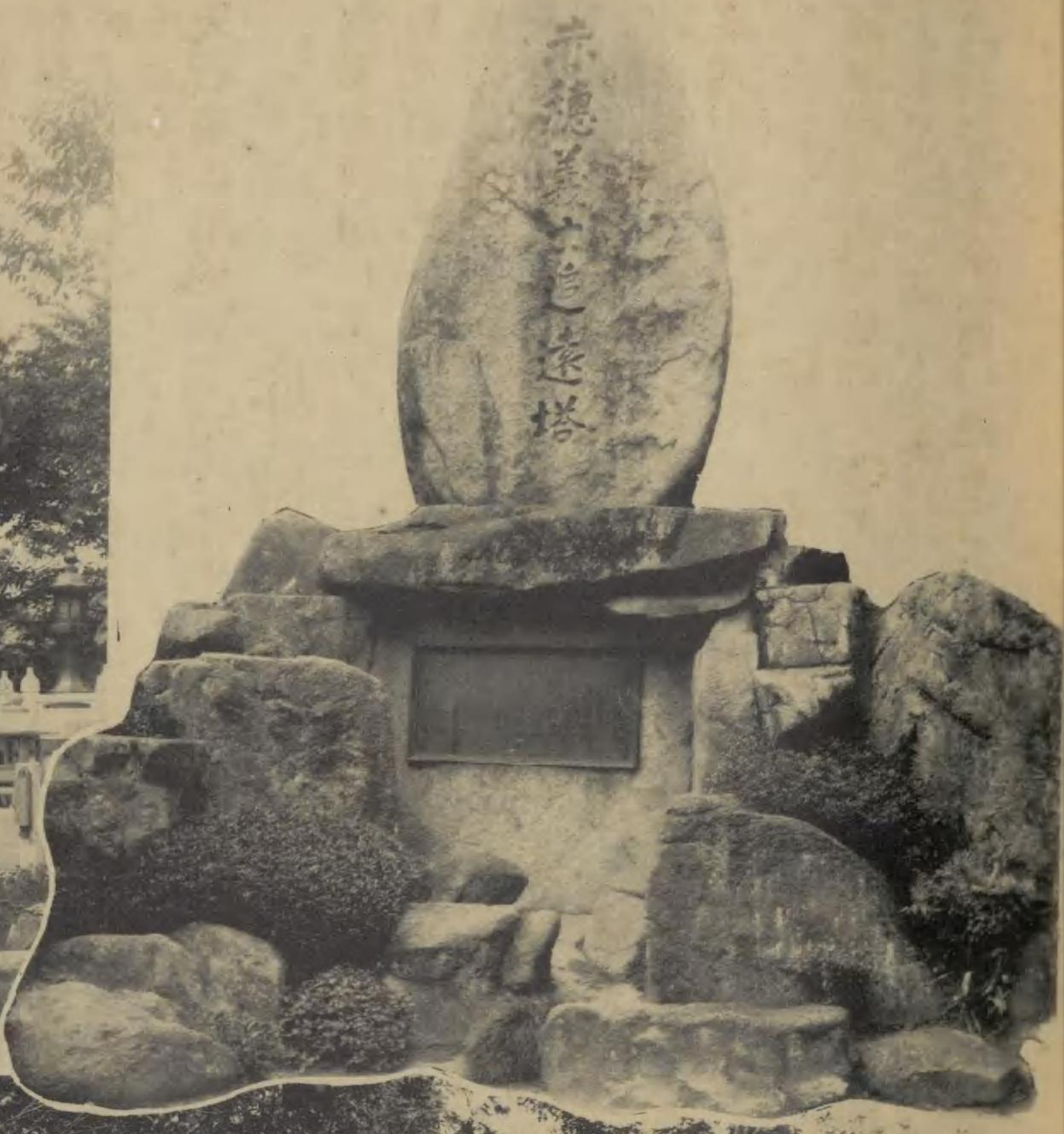
國泰寺境内にあり、廣島赤穂義士追遠會の建立で、塔石、台石共に境内池中に埋没してゐた自然石である。昔は同寺附近は海中であつた。

廣島赤穂義士追遠會は、明治三十七年十二月十四日を以て創立隨所に開催してゐたが、其内大石氏に最も因縁ある國泰寺に移し、現今は會員四十七名を以て諸般の社會教化事業に當り、其の追遠法會は廣島市に於ける年中行事中の盛舉の一に數へられる。

塔は先住佛海師の主唱で建設會等も設けられ各方面の翼賛により大正元年十月五日を以て除幕式が擧げられた。

### 國泰寺の樟

國泰寺境内墓地の一隅に在る樟四株は、僧琳英が開山の當時植栽したと言ひ、樹高は(一)三十米、(二)約十七米、(三)約二十八米、(四)二十米、目通周圍は(一)七米、(二)約七米、(三)五米余(四)四米余、就れも樹勢盛で、昭和三年十一月天然記念物として指定された。



上右 赤穂義士追遠塔  
 同中 國泰寺經藏  
 同左 淺野長晟公墓  
 下右 大石三郎墓  
 同左 國泰寺樟樹



式。成無酒造主として

山陽通稱、山陽にあり、及應神廟を賣出し、天下に其の各處を朝してあり、又、廻船に東京出

る、郷土の大夫、寛政の御時、進幕の御念として、細路三平、家業土に経緯を掛し、

寛政の御時、山陽通稱本論、は、堂村田、寛政の御時、四十四年一月の御業を辨し、

### 山陽通稱本論

藩政志の御書として著すあり、天保正平、十八歳に及ぶ、

杏林の春水の末、寛政の御時、山陽通稱本論、文苑十一、三、天保正平、奉旨となり、合、各、高、

近、土、留、郷、に、限、ち、り、文、苑、十、三、年、十、一、歳、に、及、ぶ、著、す、る、山、陽、の、父、子、也、







## 頼山陽先生

頼山陽先生は春水を父とし梅颯を母として安永九年大阪江戸堀の春水南軒に生れた、名は襄字は子成、通稱久太郎、山陽と号した、十三歳にして詩を賦し、柴野栗山を驚かす、且其の示教に感奮し通鑑綱目を讀んで興亡治乱の大勢を記憶した  
曾ては脱藩し、罪を得て仁室の閑を賜り、日本外史の原稿蓋し此の時に成ると言はれてゐる、許されて菅茶山の塾を督すること年余、去つて京都に居り文化九年日本外史完成、文化十三年父の喪に服し、忘明後九州地方を歴遊した、天保三年日本政記の稿を起し、未だ脱稿せぬ中に病に罹り、全三年九月二十三日京都の僑居山紫水明所に於て、五十三歳で逝去した、

## 山陽先生舊居

廣島市の中心地、袋町の一角に在り、勤王の權化、絶代の文豪と稱せらる、頼山陽先生が二十一歳より五年間、此建物内に幽居中、明治維新の原動力となりし日本外史の著述に心血を傾注せられたる處である、

## 頼山陽文徳殿

廣島市比治山公園にあり昭和七年、頼山陽先生の百年祭に當り、廣島縣は顯彰會を以て先生の舊居の邊りに記念館を建設する事になつたが、廣島市としては之と別途に公私合同の頼山陽文徳殿建設翼賛會を組織し頼家諸先生の墳墓の地多聞院に近く、歡喜松の樹側の地を卜し記念事業として山陽文徳殿を建設、昭和九年十月二十日竣工した

## 山陽先生像

文徳殿内正面の床上に安置された銅像は、高さ二尺二寸、本縣出身の彫塑家富樫政人氏苦心の作である

## 頼家の陽墓

比治山西麓古義真言宗多聞院の境内にある、正面は春水、右が杏坪、左が聿庵の諸先生、其他一族の墓所、

春水はその号、字は伯栗又は千秋、名は惟寛(惟完)と言ひ竹原に生れ、藩主淺野重晟、齊賢兩公に仕へた朱子學者、齊賢公の時に御側詰同格(知行三百石)となり平民階級より起つて武士階級に列され文政十三年七十一歳で歿した、著名な山陽の父である

杏坪は春水の未弟、廣島藩に仕へた朱子學者、文政十一年三次町奉行となつて令名高く藝藩通志の編者として著名である、天保五年七十九歳で歿した、

## 頼山陽煎餅本舗

廣島市鉄砲屋町 頼山陽煎餅本舗、ねぼけ堂村田安藝氏は明治四十四年一月の創業で豫てより郷土の大文豪先生の遺徳に私淑し、追慕の記念として、昭和三年家業上に登録を得て、山陽煎餅、山陽しるこ、文徳煎餅を賣出し、天下に其の名聲を博してゐるが、販路は東京地方、知識階級を主としてゐる

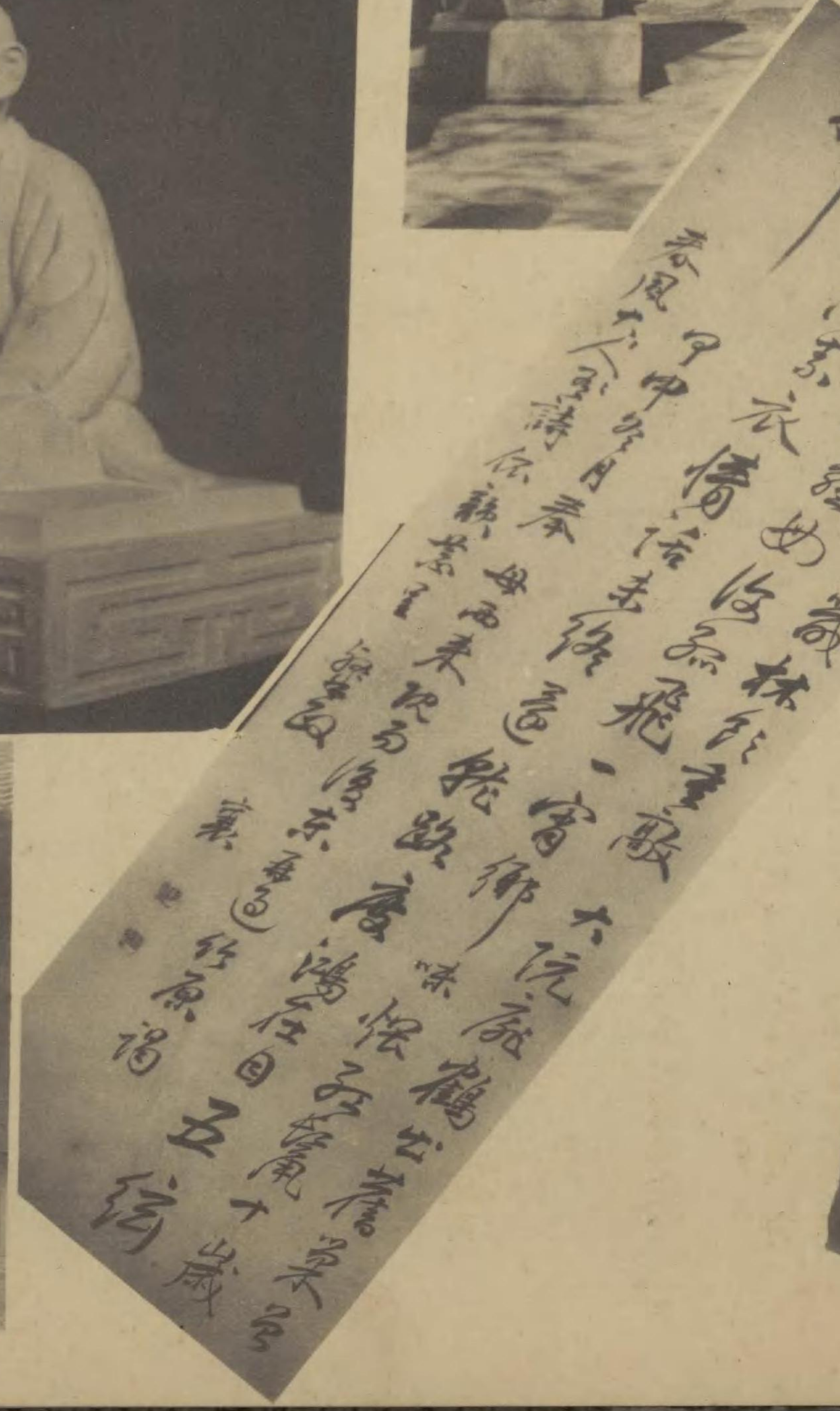




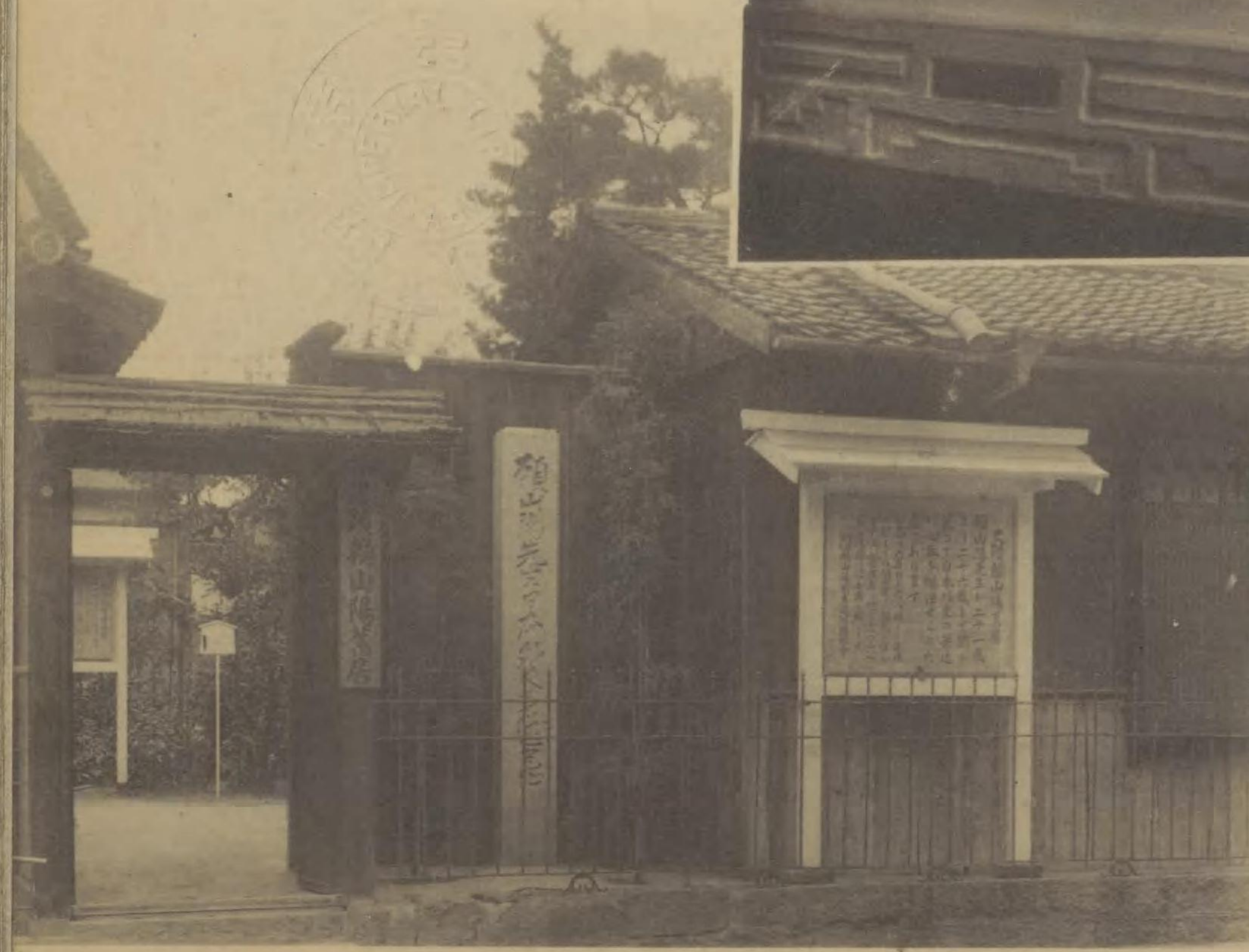
春水はその号、字は伯栗又は千秋、名は惟寛(惟完)と言ひ竹原に生れ、藩主淺野重晟、齊賢両公に仕へた朱子學者、齊賢公の時に御側詰同格(知行三百石)となり平民階級より起つて武士階級に列され文政十三年七十一歳で歿した、著名な山陽の父である  
 杏坪は春水の未弟、廣島藩に仕へた朱子學者、文政十一年三次町奉行となつて令名高く藝藩通志の編者として著名である、天保五年七十九歳で歿した、

### 頼山陽煎餅本舗

廣島市鉄砲屋町 頼山陽煎餅本舗、ねぼけ堂村田安藝氏は明治四十四年一月の創業で豫てより郷土の大文豪先生の遺徳に私淑し、追慕の記念として、昭和三年家業上に登録を得て、山陽煎餅、山陽しるこ、文徳煎餅を賣出し、天下に其の名聲を博してゐるが、販路は東京地方、知識階級を主としてゐる



中央 山陽先生肖像  
 同右 同 筆蹟  
 左上 同 文徳殿  
 同下 同 舊居  
 右上 頼家の墓  
 同下 山陽煎餅店舗





蘇立金及縣銀金

三八

六八八廿二

縣及資本金

三、廿五〇

正、正一四

絲資本金

一正、〇〇〇

一八、二〇〇

退官官罰通卷

六、三三六

六八、六四正

蓄資出金

三四、小〇八

四正、八正四

蓄貯金

四一、正一二

一〇、小、一〇一







## 藝 備 銀 行

廣島市紙屋町に在り

明治十五、六年の頃既に本川に所在したと謂はれ、文字通り廣島市に於ける銀行の草分である第六十六銀行其の他縣下に於て、舊き歴史と信用とを有つた、廣島銀行、廣島商業銀行、角倉銀行、比婆銀行、三次貯蓄銀行及び双三貯蓄銀行の營業を繼承し、大正九年六月設立、同十月一日開業した、株式會社藝備銀行は、廣島縣並に近縣地方の商工業其の他一般の金融利便を圖ることを使命とする唯一の郷土銀行である、

廣島縣各郡の都邑は勿論、交通設備に恵まれざる方面にまでも、その營業所を配置し可及的汎く利便を圖るの外、國庫金取扱銀行として、復廣島縣金庫事務取扱銀行として、廣く地方に對する金融機關本來の使命たるサービスに努めて居る、

地方産業の開發上、銀行機能の完全なる發揮を必要とするは言を俟たぬ所で、随つて、縣下金融界の安固、圓滑を期するは同銀行の設立を見るに至つた唯一の理由であつた、

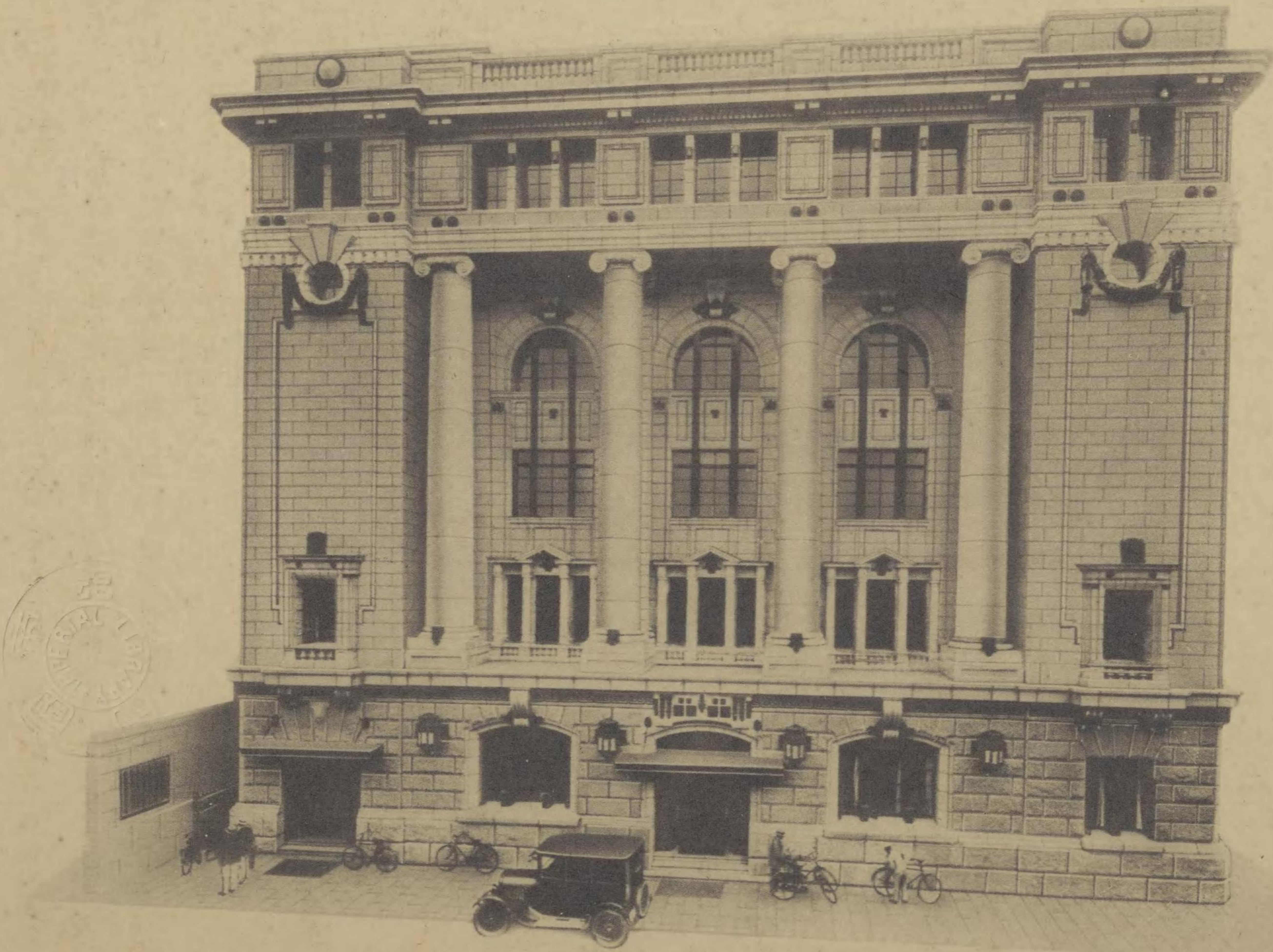
即ち、同銀行は、大正十四年以降縣下に本店を有する中國商業、尾道商品、加計、仁方、多川、廣第一、吳第一、可部の各銀行を合同して、その設立趣旨の貫徹を實現し、少銀行の地方的割據に伴ふ弊害を除却して來た、

加之、廣島縣と商取引上、密接なる關係を有する近縣地方に對しても其の取引上の、敏活を助長し、堅實を確保する爲め、岡山、山口兩縣下に營業所を開設するの外、昭和三年には愛媛銀行、西條銀行及び伊豫三島銀行を合同して愛媛縣下に進出し、中國地方と同縣との商取引發達に貢獻して居る、

因に同銀行の業績については第一期(大正九年十二月末)と第二十八期(昭和九年六月末)との決算を比較して見ると、如何に同銀行が短時日の間に長足の發展を遂げ、主要勘定の膨脹を來して居るかが、事實に於て判明する、

種 目	第 一 期	第 二 十 八 期
諸 預 ヲ 金	四一、五二二 <small>千円</small>	一〇七、一〇一 <small>千円</small>
諸 貸 出 金	三四、七〇八	四五、八五四
所有有價証券	九、三三六	六八、九四五
総 資 本 金	一五、〇〇〇	一八、二〇〇
拂 込 資 本 金	三、七五〇	五、五一四
積立金及繰越金	三八	六、八九二





種 目  
 諸 預 ヲ 金  
 諸 貸 出 金  
 所 有 有 價 証 券  
 総 資 本 金  
 拂 込 資 本 金  
 積 立 金 及 繰 越 金

第 一 期  
 四一、五二二千円  
 三四、七〇八  
 九、三三六  
 一五、〇〇〇  
 三、七五〇  
 三八

第 二 十 八 期  
 一〇七、一〇一千円  
 四五、八五四  
 六八、九四五  
 一八、二〇〇  
 五、五一四  
 六、八九二

を 来 して 居 る 事 實 に 於 て 半 明 する











## 廣島市廳

廣島市國泰寺町にあり、明治四年廢藩置縣の時總地域を四區に分ち多少の變革を経て後一大區と稱し、十一年廣島區となり、役所を大手筋一丁目に置き尋で中島新町に移り、明治二十二年市制實施せられ市役所と改められた、

廣島市は太田川の下流に位し、その三角洲が要部となつてゐる、面積は約七十方軒、東西約十二軒、南北凡そ九軒である

この地はもと五箇庄と呼ばれ、海濱の葭原であつたが、天正十七年毛利輝元こゝに築城して廣島と改稱した、慶長五年輝元長門周防に移り福島正則その後を襲ひて城池を修理した、元和五年淺野氏の入國してから明治二年の版籍奉還まで藩治約二百五十年の城下であつた、明治二十七年、八年戰役の際明治天皇大轟をこの地に進め給ひ、第五師團司令部内に大本營を置かれたので市内は臨戰地境となつた、

明治三十三年、同三十七、八年、大正三年同九年等戰役毎に軍隊出入の要地であつた、人口は二十九万に達し、中國地方の最大都會で、縣治、軍事、教育等の中心である、新市廳舎は、川淵龍起氏の市長時代、七十四万九千餘圓の經費を以て大正十五年六月一日着工、昭和三年三月二十八日竣工し、総坪數二千六百八十九坪に達する近世式建築で、市中央の一の輪奐の美を誇つてゐる

## 廣島縣產業獎勵館

廣島市猿樂町 明治四十三年縣會に於て建設議決、大正三年一月起工、同年四月職制發布、四年三月竣工、同年八月業務を開始した、

始め廣島縣物産陳列館と稱したが、大正十年一月廣島縣立商品陳列所と改稱、昭和八年十一月一日より更に廣島縣產業獎勵館と改めた、

當時元安河畔の輪奐の美は市内建築物の最モダンな誇りであつた、業務の要項は、生産品販路の開拓、海外貿易の斡旋及指導、商品改善の指導、商工に關する參考品の陳列及貸與、圖案の調査、生産品の調製及指導、産業に關する圖書其他刊行物の發行、蒐集及展覽等である

## 廣島商工會議所

廣島市猿樂町 明治二十四年一月創立、當時事務所を中島新町に設け、後大手町一丁目商工俱樂部内に移し、四十年一月現在の地に新築移轉したが市内商工業の勃興に伴ひ漸く狹隘を感じ、大正十四年更に後方に新館を増築した

元、廣島商業會議所と稱してゐたが昭和三年商工會議所法の改正と共に改稱、現時議員數四十五名、特別議員、顧問九名である

## 廣島驛

廣島市大須賀町にあり、山陽線中唯一の大驛で、大正九年一月起工し、同十一年八月竣成した、經費約五十二万圓を要し、外觀の美内部の整備せること中國稀に見る偉觀である、門鉄保線事務所、廣島運輸事務所等その構内にあり、停車場は有數の機構である

## 相生橋

廣島市櫓下にあり、此の所は俗に中島慈仙寺鼻の突端を以て三篠川を元安川と本川に分岐する所で、鍛冶屋町と慈仙寺鼻間の舊西相生橋は明治三十九年の架設の儘修理に修理を加へつゝある木橋、慈仙寺鼻と猿樂町間の東相生橋は大正八年の大水害に流失した爲め翌九年架設した木橋であり、その上流元の電車鉄橋の位置に四十三万圓の巨費を投じ昭和七年十二月起工、昭和九年六月竣成したが、電車軌道併用の鋼鉄新國道橋であるが、その國道橋と慈仙寺鼻の突端とを聯絡する所謂丁字橋は長さ六十二米、幅七米九二、經費五万圓、橋脚三基を有する鋼鉄橋で、昭和九年一月四日起工、全年十月六日竣成し、舊二橋と、國道橋との中間に文字通り介在して、大廣島市中央部に珍らしい新風景を形成した





廣島市大須賀町にあり、山陽線中唯一の大驛で、大正九年一月起工し、同十一年八月竣成した、經費約五十二万圓を要し、外觀の美内部の整備せること中國稀に見る偉觀である、門鉄保線事務所、廣島運輸事務所等その構内にあり、操車場は有數の機構である

相生橋

廣島市橋下にあり 此の所は俗に中島慈仙寺鼻の突端を以て三篠川を元安川と本川に分岐する所で、鍛冶屋町と慈仙寺鼻間の舊西相生橋は明治三十九年の架設の儘修理に修理を加へつゝある木橋、慈仙寺鼻と猿樂町間の東相生橋は大正八年の大洪水に流失した爲め翌九年架設した木橋であり、その上流元の電車鉄橋の位置に四十三万圓の巨費を投じ昭和七年十二月起工、昭和九年六月竣成したのが、電車軌道併用の鋼鉄新國道橋であるが、その國道橋と慈仙寺鼻の突端とを聯絡する所謂丁字橋は長さ六十二米、幅七米九二、經費五万圓、橋脚三基を有する鋼鉄橋で、昭和九年一月四日起工、全年十月六日竣成し、舊二橋と、國道橋との中間に文字通り介在して、大廣島市中央部に珍らしい新風景を形成した



上 廣島市廳  
上右 廣島驛  
下 相生丁字橋  
中央 廣島縣産業獎勵館  
下左 廣島商工會議所











## 廣島控訴院

廣島市小町 明治十五年一月の創設 廣島控訴裁判所と稱し安藝備後周防長門出雲石見因幡伯耆隱岐の九ヶ國を管轄區域とし、廣島外七箇の各始審裁判所及その管内の十三箇の各治安裁判所を管轄し、重罪若くは輕罪の始審に對する控訴及始審の民事の控訴を裁判した、後改廢増減あり、明治十九年五月控訴院と改稱した、二十八年三月以來管轄區域數次の變更あり現在廣島、岡山、山口、鳥取、島根、愛媛の諸縣を管轄してゐる

## 廣島遞信局

廣島市東白鳥町 明治四年始めて廣島郵便所を置かれ、八年之を廣島郵便局と改め十二年廣島驛遞出張局を置かれ廣島郵便局と兼攝した、十九年岡山遞信管理局新設、管理事務はその所管に移り、廣島郵便、電信兩局を一等局となす、二十二年岡山遞信管理局廢止せられ郵便電信二局を合併して廣島郵便電信局と改稱し、縣下に於ける兩業務を監督、二十六年島根、山口兩縣下をも併管、三十六年廣島郵便局と改む、四十三年廣島遞信管理局を新設し廣島、島根、山口、愛媛の四縣下の管理事務を掌り、大正二年其廢止と共に大阪の西部遞信局の管下に入り廣島郵便局に於て廣島、山口、愛媛三縣下の管理を分掌した、大正八年廣島遞信局大手町八丁目に新設され、廣島、島根、鳥取、岡山、山口、香川、愛媛七縣下の管理事務を掌理、昭和八年四月白鳥町元衛戍監獄跡に新築成り移轉した

## 廣島稅務監督局

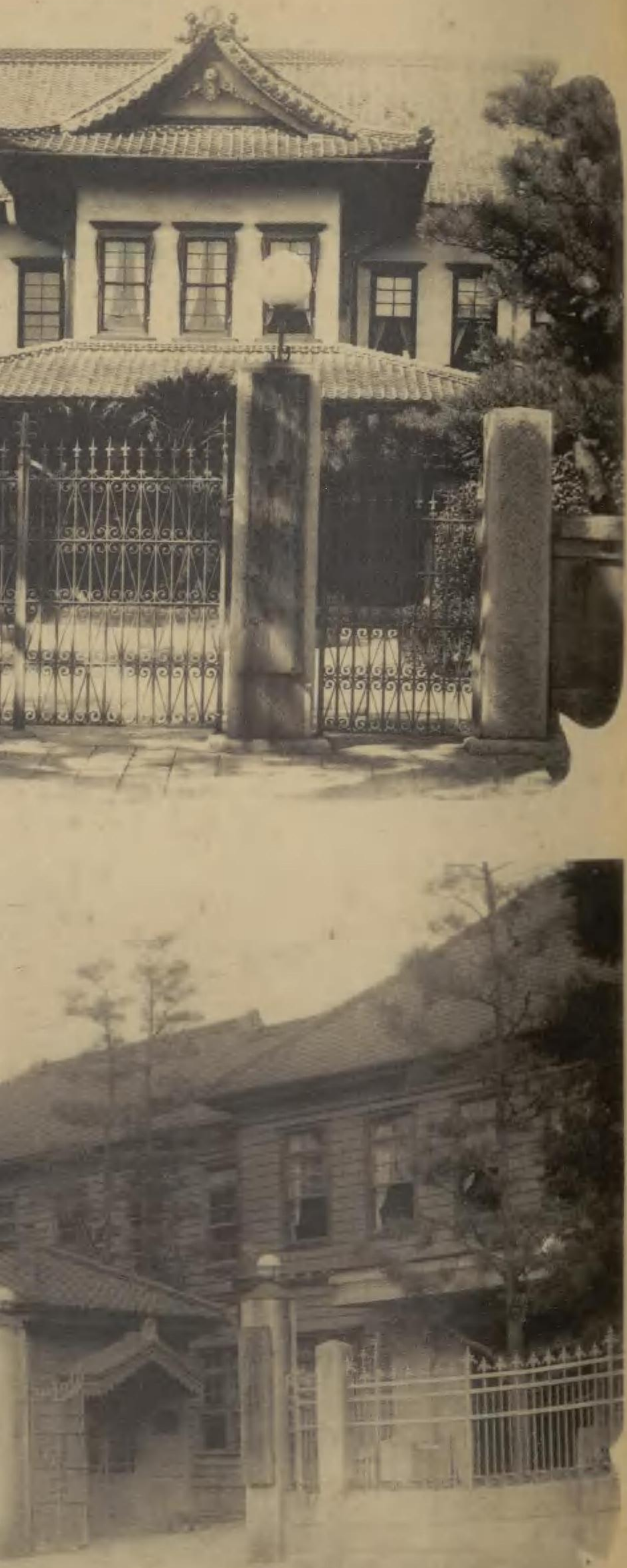
廣島市八丁堀 明治二十九年廣島稅務管理局を置き、廣島、山口、兩縣を管轄、三十五年之を廣島稅務監督局と改稱し四十二年岡山島根鳥取の三縣を併管し、更に大正十三年愛媛縣を合し、現在此の六縣下に於ける四十八稅務署に對する監督事務を管理してゐる

## 廣島地方專賣局

廣島市皆實町 明治三十年四月、廣島二等葉煙草專賣所を段原町に設置、當時廣島縣の一部、山口縣一圓、島根縣の一部を管轄し專賣行政事務を掌つた、三十二年四月三原專賣所へ合併せられ三原專賣支局の管轄に屬して其出張所となつた、三十七年五月專賣支局の改稱に紙巻煙草製造開始により大阪第一製造所廣島煙草藏置所を置かれ之が販賣事務を掌つたが、三十八年收納所の廢合により出張所を廢し府中煙草製造所の設置により其の分工場となつたが、同年塩專賣店實施せられ尾道塩務局の出張所となつた後煙草塩に關する法令頒發、名稱區域等の變更改廢數次に及んだが、大正十年七月の改正に依り廣島地方專賣局と改稱した、是より先皆實村元陸軍豫備病院敷地を買收し煙草製造所を建築し段原工場を分工場とし、十二年十月塩販賣官署に指定され、十三年三月より兩切煙草の製造作業を開始し、今や管内七出張所、塩煙草兩取扱十七ヶ所を管し一般專賣行政事務をも管掌してゐる

## 廣島中央放送局

廣島市上流川町にあり 廣島中央放送局(JOFK)は昭和三年七月六日開局、管下に松江放送局(JOTK)、昭和七年三月七日開局、高知放送局(JORK)、昭和七年三月二十二日開局、下關出張所、吳出張所あり、管轄地區は廣島、山口、島根、愛媛、高知の各縣、備中及伯耆の國である、上流川町にある演奏所は、二階建鉄筋コンクリート、延坪數二三五、五坪で、第一、第二の演奏室を有してゐる、安佐郡原村にある放送所は、米國ウエスタン電氣會社製の放送機、鉄塔の高さ三五米二基、空中線は複調式、同電力一〇キロワット、電波長三五二、九米、有線中繼聯絡線の中直通線は岡山を経て大阪及び松江、小倉を経て福岡に到つてゐる





是より先皆賣村元陸軍野砲隊駐屯地、昭和十二年十月塩販賣官署に指定され、十三年三月より両切煙草の製造作業を開始し、今や管内七出張所、塩煙草兩取扱十七ヶ所を管し一般專賣行政事務をも管掌してゐる

### 廣島中央放送局

廣島市上流川町にあり 廣島中央放送局 (JOFK) は昭和三年七月六日開局、管下に松江放送局 (JOTK)、昭和七年三月七日開局、高知放送局 (JORK)、昭和七年三月二十二日開局) 下關出張所、吳出張所あり、管轄地區は廣島、山口、島根、愛媛、高知の各縣、備中及伯耆の國である、  
 上流川町にある演奏所は、二階建鉄筋コンクリート、延坪數二三五、五坪で、第一、第二の演奏室を有してゐる、  
 安佐郡原村にある放送所は、米國ウエスタン電氣會社製の放送機、鉄塔の高さ三五米二基、空中線は複調式、同電力一〇キロワット、電波長三五二、九米、有線中繼聯絡線の中直通線は岡山を経て大阪及び松江、小倉を経て福岡に到つてゐる



右上 廣島控訴院  
 同下 廣島稅務監督局  
 中央 廣島中央放送局  
 同下 同 放送所  
 左上 廣島通信局  
 同下 廣島地方專賣局













## 廣島縣會議事堂

廣島市水主町

縣廳舎に連り與樂園の北に隣る舊議事堂は明治十三年の建築にて腐朽せるに依り明治四十一年より新築工事に着手し四十三年十月竣工せるものである。

## 廣島病院

廣島市水主町に在り

廣島病院は明治十三年五月廣島公立病院として設置され水主町廣島公立醫學校北舎を以て之に充て廣島縣假病院と稱し同時に私社病院躋壽館が廢せられ同館備付の書籍器械類は仮病院へ献納された。

全十一年三月廣島醫學校は病院附屬となし廣島縣假病院附屬醫學校と稱し、全年十二月には廣島縣公立仮病院は廣島縣立病院と改稱された。

全十七年二月廣島醫學校を甲種醫學校と改稱、全十八年廣島縣立病院を廣島病院と改稱したが、二十一年三月には廣島醫學校が廢止された。

爾來増築、擴張數次に亘り現在内科、外科、眼科、産科婦人科、耳鼻咽喉科、小兒科、皮膚泌尿科、齒科、病理部、藥劑部、庶務部の十一部に分ち、病館九棟、患者收容定員二百二十人下、その設備の完整は關西醫業界に於て模範的權威とされてゐる。

加之、同病院は西三篠川の支流本川に臨み、南閑雅清逸なる附屬地與樂園を控へ、土地高燥、空氣清澄、病痾の療養に天與の地の利を占めて居るが、尙諸般改善の爲め近く適當の地に移轉改築の議もある。

## 與樂園

廣島市水主町に在り

廣島三園の一で、明和二年藩主淺野重辰公、創設する所の別墅で、翌年三月竣成し、文化二年改修された。

明治維新の後、縣廳、病院の敷地と共に官に買收され明治十二年十二月病院の附屬地となつたが、亭榭殆ど皆破劫せられ、今僅かに河邊の一小亭今水樓が存するのみである、此亭は文化二年に造築された天青閣の一部である。

此園規模宏壯ならざるも風光頗る優雅、病客の徜徉、眺望等絶好の天地である。

## 日本赤十字社 廣島支部

廣島市千田町に在り

明治十八年廣島博愛社の設立がその前身である。

我が政府が萬國赤十字に加盟するに及び明治二十一年日本赤十字社廣島支部と改稱され、爾來日清、北清、日露、歐洲、滿洲の各戰役事變及び幾多の天災地變に際して常に眞先に目醒しき活動の第一線に立つてゐる。

現に救護員の養成並に糸崎療養院及び支部療院の經營其の他種々の社會的衛生事業を實施してゐるが、近く更に日本赤十字社廣島支部病院の建設も實現されんとし一般から社會的施設として非常な期待を持たれてゐる。

尙同支部内には我國婦人の社會事業團體の權威である愛國婦人會廣島縣支部も事務所を設け相提携して社會的に活動してゐることは周知のことである。









# 廣島縣會議事堂

廣島市水主町

## 武德殿

縣廳舎に連り興樂園の北に隣る舊議事堂は明治十三年の建築にて腐朽せるに依り明治四十一年廣島市水主町にあず手し四十三年十月竣工せるものである。

皇祖神武天皇、皇國武徳の基根を樹てられ院桓武天皇は大内裏に武徳殿を造營し給ふた。

大日本武徳會は在明治二十八年四月遷都一千百年に當り、京都市が帝徳追仰の記念館を造

築した際、創起され、平安神宮の邊りに模擬武徳殿が新築された。廣島公立醫學校北舎を以て

武徳會廣島縣支部は、明治三十七年千田町の現赤十字社支部の位置に於て發會式を擧げ、

中島校が下流の地に理立移轉するに共に現在の舊校舍跡(縣廳南隣)を敷地として、大正十

四年濱田知事の支部長時代に本殿新築落成式を擧行した。

因に支部長には知事、副支部長には警察部長、主事には警務課長が歴任し、柔、劍道は各

専任教師、名譽教師があり、弓場は谷山主事時代科水泳部は昭和八年度から創設された。皮

膚泌尿科、齒科、病理部、藥劑部、庶務部の十一部に分ち、病館九棟、患者收容定員二百二

十人で、その設備堀整は榮商會の權威とされてゐる。

加之、同病院は西三條川の支流本川に臨み、南開雅清逸なる附屬地興樂園を控へ、土地高

燥廣島市堀川町病痾の療養に天與の地の利を占めて居るが、尙諸般改善の爲め近く適當の地

に國民の元氣、活力は興國の源泉にして、一國士風の消長に至大の關係を有することは言を

俟たない。

## 興樂園

故に我が國に於ては武士道を以て國民精神の基調と爲し、武を練り、膽を鍛へ、身を養ひて一朝有事の日に備ふるの用意としてゐる。創設する所の別墅で、翌年三月竣工し、文化

尙武思想の作興には必然に形を整へるの要がある。れ明治十二年十二月病院の附屬地とな

つ劍柔大弓其他武術道具の製作は一國武道の興隆、士風の旺盛に密接なる關係ある公的事业

として父祖以來、單なる營利のみを念とせず、品質の精良と、製作の改善に専念してゐる堀

榮商會は、明治十八年の創業に係り、當主堀田榮助氏は三代目であるが、天資誠實、熱心、

斯業の造詣特に深く、大日本武徳會本部、同廣島支部、武道専門學校等の指定商舖として信

用厚く、京都左京區丸太町通圓頓美町には宏大な支店をも經營してゐる。

明治十八年廣島博愛社の設立がその前身である。

我が政府が萬國赤十字に加盟するに及び明治二十一年日本赤十字社廣島支部と改稱され、

爾來日清、北清、日露、歐洲、滿洲の各戰役事變及び幾多の天災地變に際して常に眞先に目

醒しき活動の第一線に立ちてゐる。

現に救護員の養成並に糸崎療養院及び支部療院の經營其他種々の社會的衛生事業を實施

してゐるが、近く更に日本赤十字社廣島支部病院の建設も實現されんとし一般から社會的施

設として非常な期待を持たれてゐる。

尙同支部内には我國婦人の社會事業團體の權威である愛國婦人會廣島縣支部も事務所を設





斯業の造詣特に深く、大日本武徳會本部、同廣島支部、武道専門學校等の指定商舗として信用厚く、京都左京區丸太町通圓頓美町には宏大な支店をも經營してゐる。  
 明治十八年廣島博愛社の設立がその前身である。

我が政府が萬國赤十字に加盟するに及び明治二十一年日本赤十字社廣島支部と改稱され、爾來日清、北清、日露、歐州、滿洲の各戰役事變及び幾多の天災地變に際して常に眞先に目醒しき活動の第一線に立ってゐる。

現に救護員の養成並に糸崎療養院及び支部療院の經營其の他種々の社會的衛生事業を實施してゐるが、近く更に日本赤十字社廣島支部病院の建設も實現されんとし一般から社會的施設として非常な期待を持たれてゐる。

尙同支部内には我國婦人の社會事業團體の權威である愛國婦人會廣島縣支部も事務所を設



右上 廣島縣會議事堂  
 左上 廣島病院  
 同 興樂園  
 左下 赤十字社廣島支部  
 中央 武徳殿  
 右下 堀榮商會

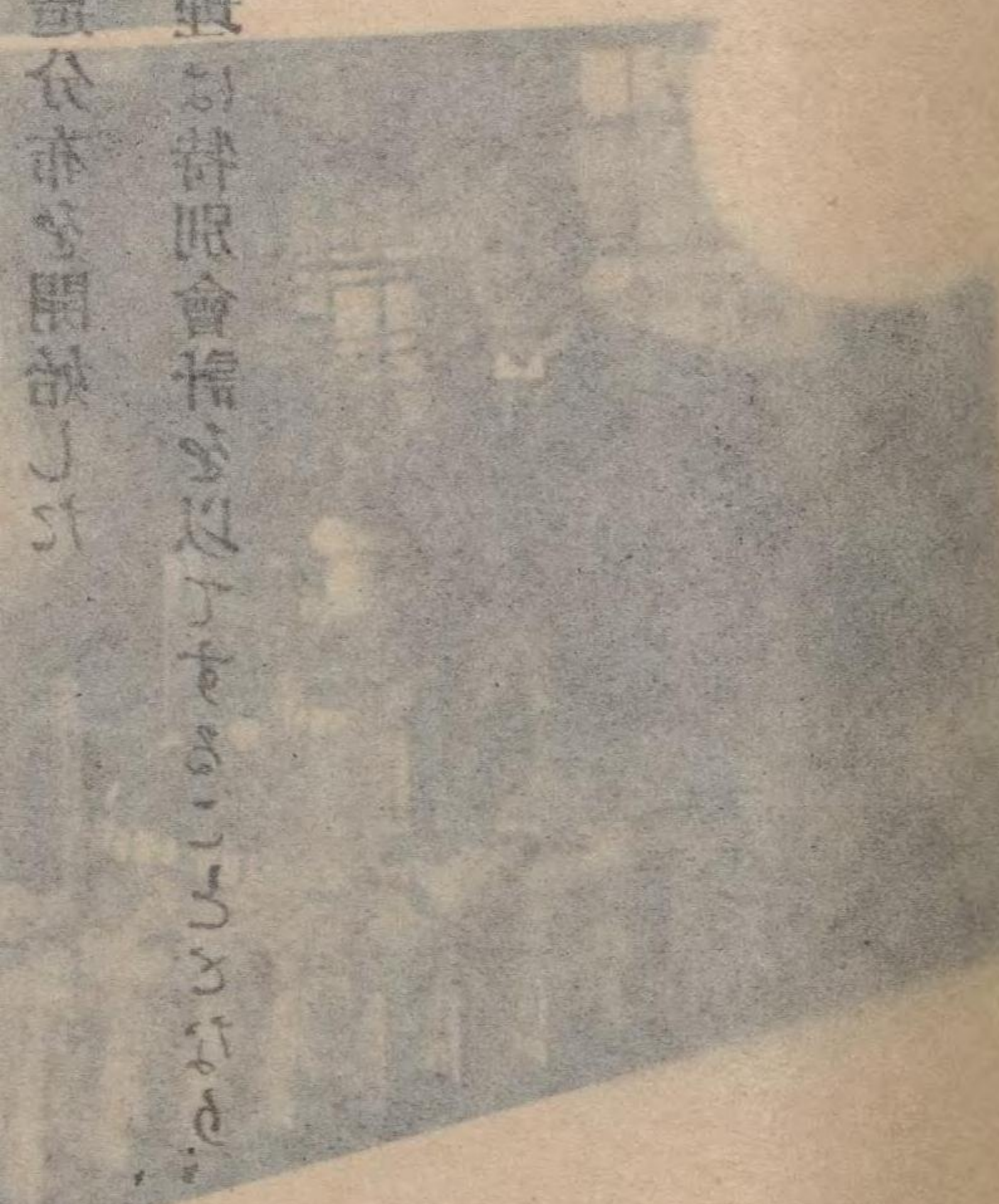




辛八月工を賦し、四半一月變工し

細味三半寄所類工事を所給御に置し、其の器類を許限會指を以てすのしよんがの  
如しよ十二半更はと直よの類器焼銅又器燬の類蓋を亦を閉鎖し

同









## 廣島工業試験場

廣島市東白鳥町 廣島工業試験場は大正七年十一月縣廳内に設置され化學部、醸造部の二部より成つてゐた、翌八年八月現在の地に本場化學試験室の一部落成移轉、九年四月福山工業試験廣島分場（大正三年四月創立の染織）を合併し化學、醸造、染織、圖案及庶務の五課を置いた、

大正十一年十月、醸造課は廣島縣醸造試験場として獨立、大正十四年三月圖案課を廢し、全年四月化學課を擴張し食品に關する業務、罐詰及製菓試験を加へた、

昭和三年度に於て染織課にメリヤス部を新設、昭和四年二月から現在の化學課（化學工業部、化學分析部）、食品課（罐詰試験部、製菓試験部）、染織課（染織試験部、メリヤス試験部）、及庶務課の四課とした、

## 廣島縣醸造試験場

廣島市東白鳥町 廣島縣は古來酒造業に縁故多く備後の三原町は三原酒を以て、同鞆町は保命酒を以て其名を知られて居り、廣島市は藩制時代四十余の釀戸輻輳し、賀茂郡三津、竹原地方も海運の便と共に夙に四國九州方面に醸造界の伸展を見、近時に於ては西條の地が新進の名釀地を以て稱せられるのみならず、吳市、福山市、府中町等亦名釀を續出してゐる

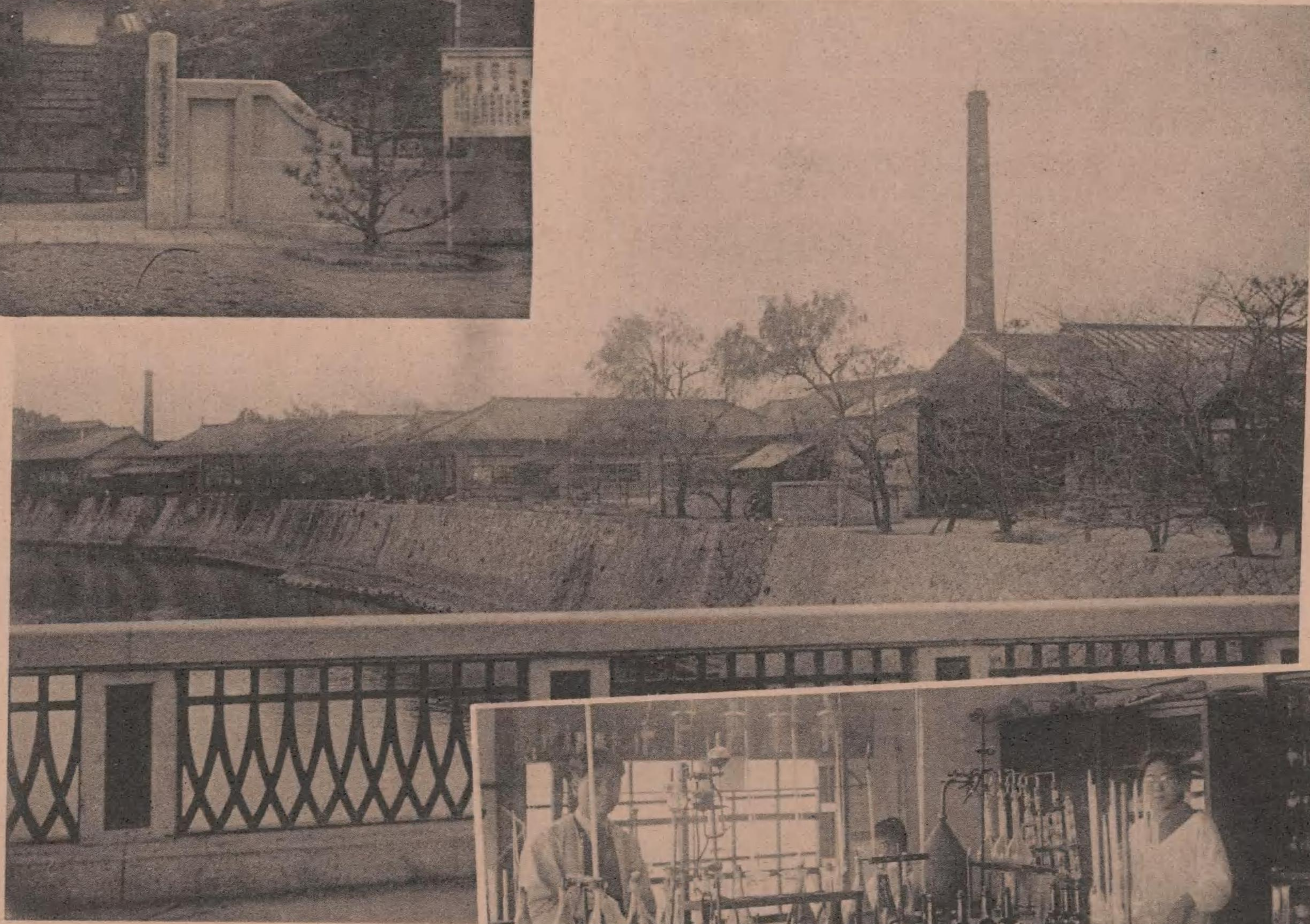
大正六年工業試験場の擴張に當りその一部に醸造機關を併合して醸造部とし、大正九年廣島工業試験場の設置せらるゝや、其の一課となつたが、大正十一年十月から工業試験場の一課より分割して、縣立醸造試験場となつた、

而して醸造試験室（細菌室及化學分析室）醸造實驗工場、種麴製造室、其他の附屬建物完成により十二年度からは直ちに醸造試験及種麴の製造分布を開始した

昭和三年清酒醸造工場を西條町に設置し、其の經理は特別會計を以てすることとなり、同年八月工を起し、四年一月竣工した







廣島工業試験場  
同醸造試験場の内部

而して醸造試験室（細菌室及化學分析室）醸造實驗工場、種麴製造室、其他の附屬建物完成により十二年度からは直ちに醸造試験及種麴の製造分布を開始した  
昭和三年清酒醸造工場を西條町に設置し、其の經理は特別會計を以てすることとなり、同年八月工を起し、四年一月竣工した





















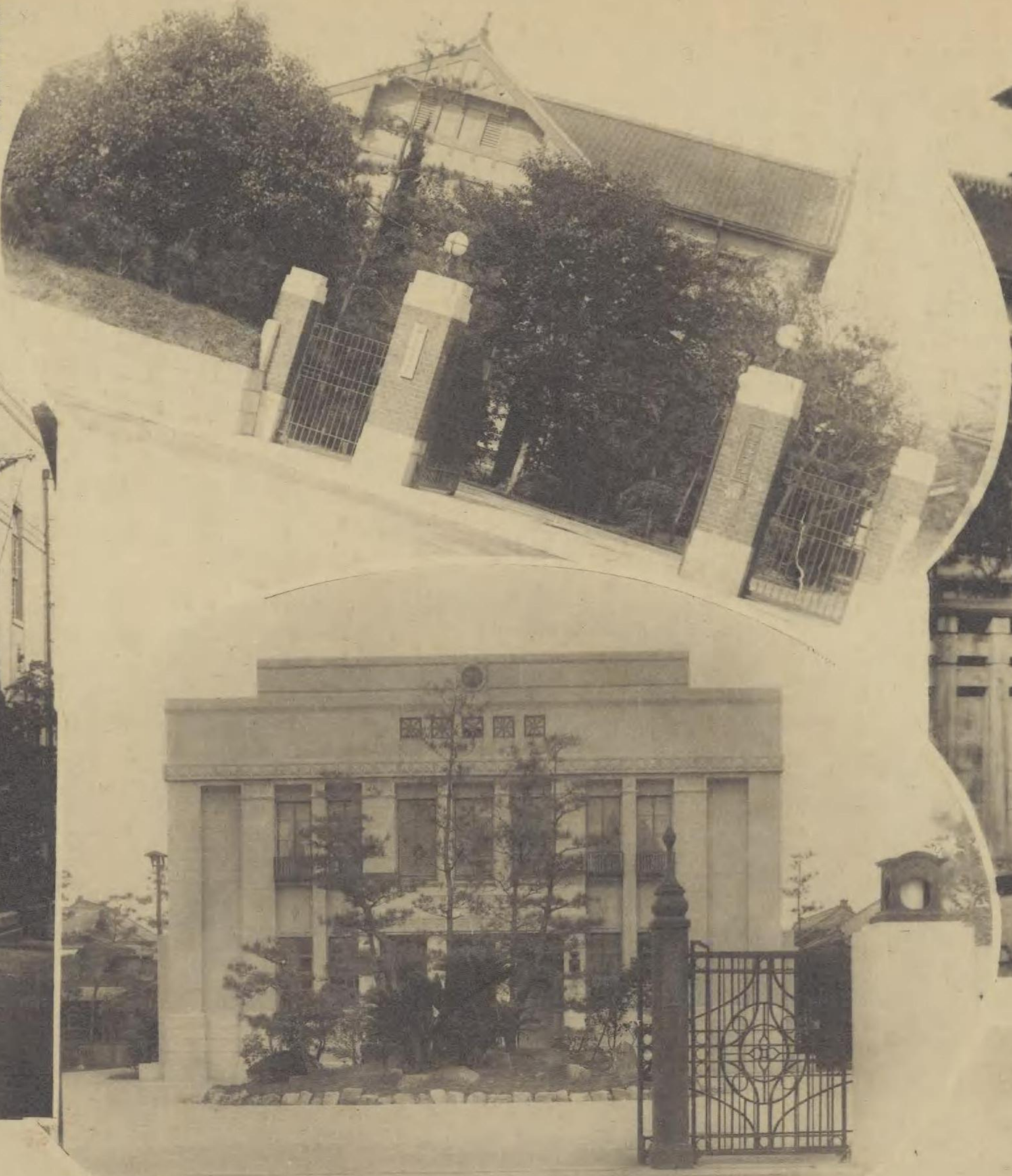


長、廣島縣中等教科書組合副組合長、廣島縣國定教科書特約販賣所專務取締役として業界の  
 發展に努め、本縣同業組合の優秀なる事を全國に認められてゐる。猶町評議員として町内の  
 爲めに盡す所も多く、徳を稱へられてゐる。

廣島縣教育會は、明治十七、八年頃創立された教育協會がその前身其ノ二治二十年時の文  
 部大臣森有禮氏の教育振興の打鐘に衝戟されて教育協會の中心者の斡旋により千田知事を總  
 裁に推し十一月發會式を擧げ、機關雜誌「養備教育」を發刊し、明治二十四年四月には講習  
 部を設け、同年八月以降毎年大講習  
 部を設け、同年八月以降毎年大講習  
 部を設け、同年八月以降毎年大講習



廣島女子專門學校



廣島大學

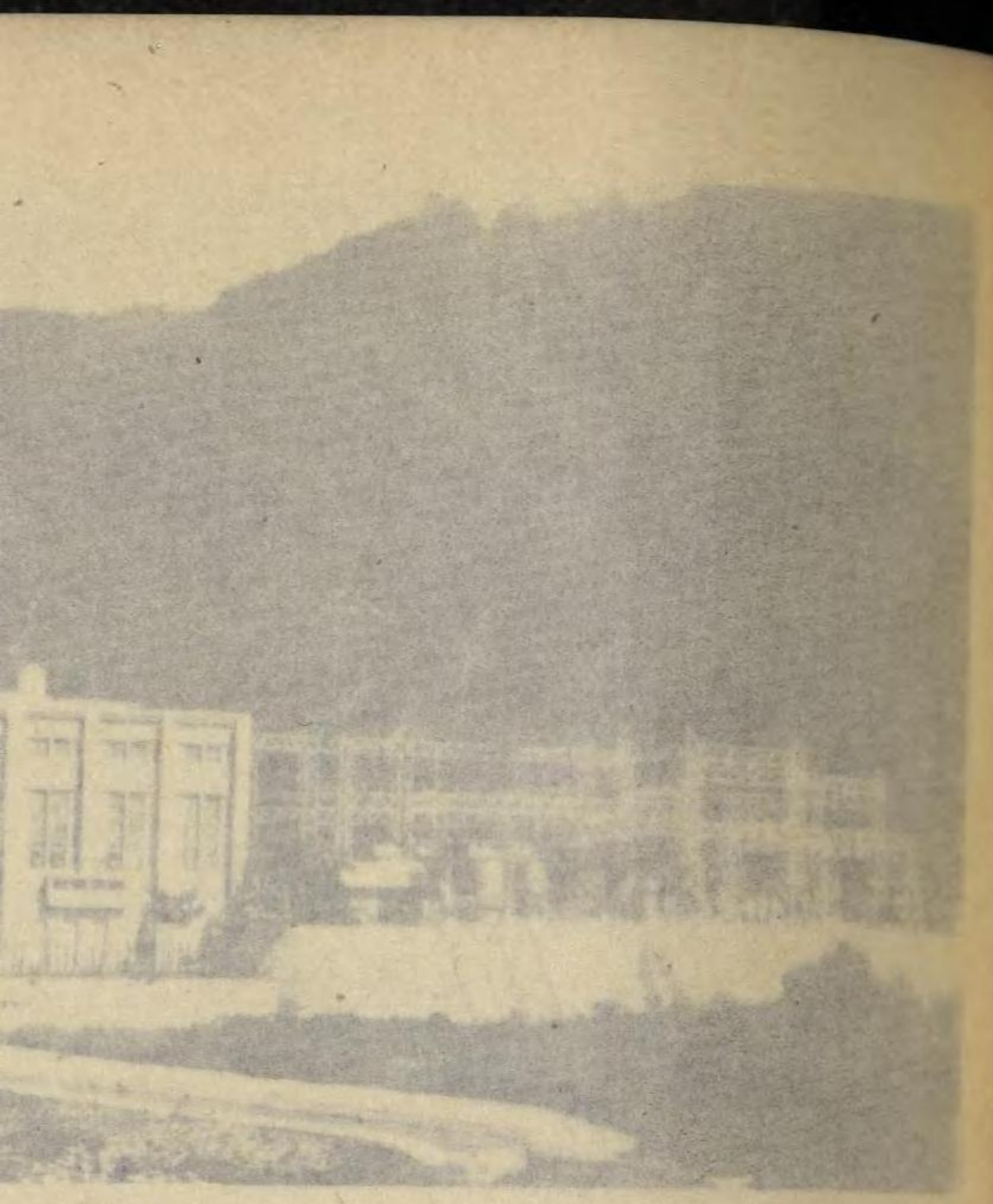


廣島縣教育會館

中央 廣島高等學校  
 同上 廣島高等工業學校  
 同下 廣島文理科大學  
 右上 廣島女子專門學校  
 右下 廣文館  
 左上 廣島縣教育會館  
 左下 積善館







[This page is blank and contains no text.]







## 廣島電氣株式會社

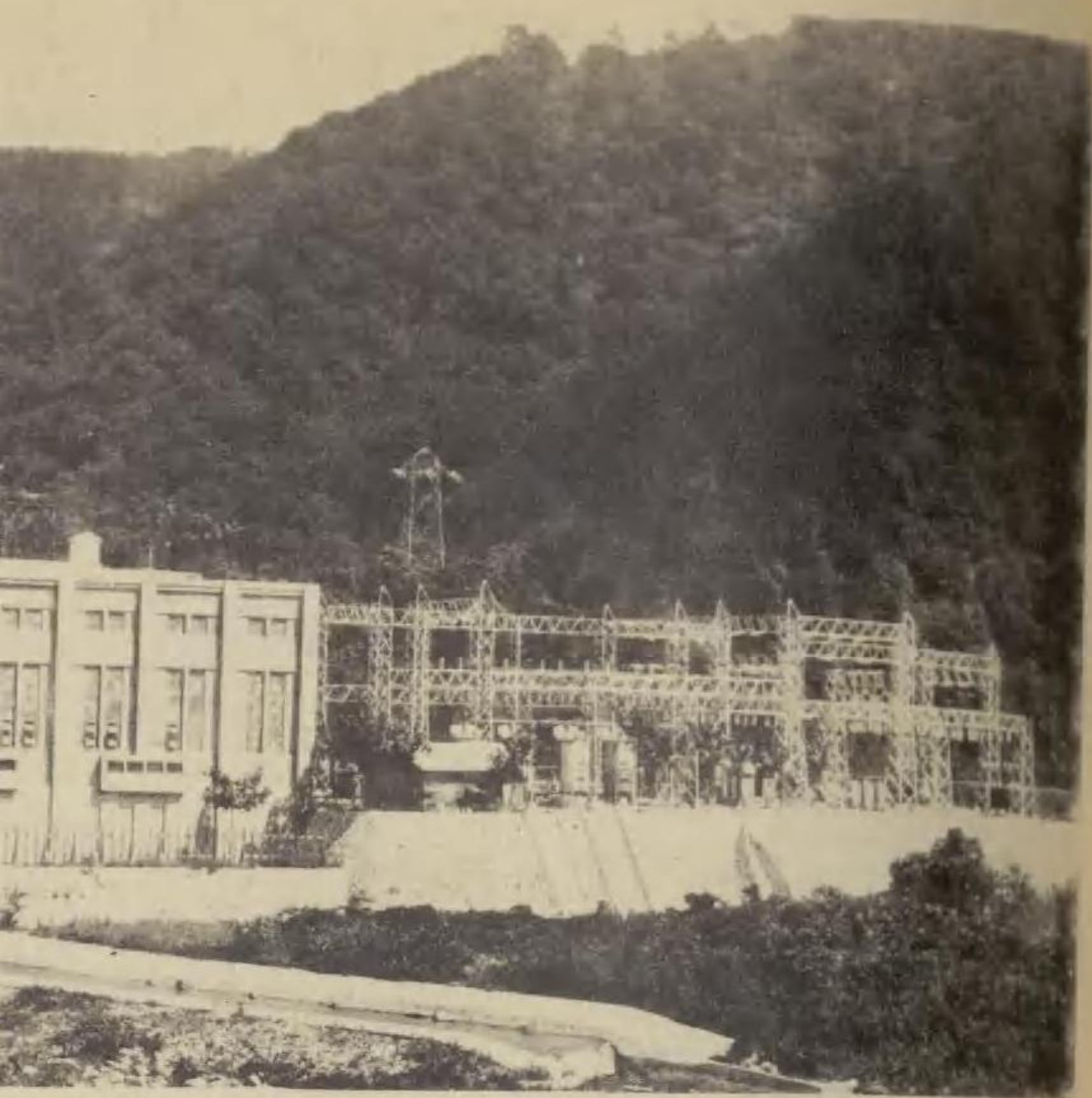
廣島市小町

大正十年八月、廣島電燈および廣島吳水力兩社を合併した當時資本金は二千五百萬圓であつたが、その後増資、山陰電氣、可部軌道、倉吉電氣、境電氣合併等により現在では六千萬圓の巨資を擁し、電力供給區域は廣島、岡山、鳥取、島根の四縣下、五市五百十四ヶ町村に亘り、西日本電氣業界に於いて斷然覇を稱へてゐる廣島電氣株式會社は、守屋社長の現想的社是第一次十年計畫、四大綱にわたる施設は既に完成し、引續き着手された第二次十年計畫も、極めて順調に實現の緒につき社礎いよく鞏固と謂はれてゐる

この間、熊見、太田川、加計、川平各水力發電所が竣成し、佐伯郡四和村飯山には十五萬坪の貯水池が造築され、栗栖川發電所も竣工するなど同社社業の基幹をなす發電所は水力十七ヶ所、火力五ヶ所に達し益々將來の飛躍發展が期待されてゐる

昭和八年四月から着工した出力一万一千キロの下山發電所、二千キロの堰堤發電所は昭和九年十月完成、この結果、瀧山峽、三段峽を擁する縣立藝北公園の中心地帯の翠巒、奇嶂を壁橋とし蜿々たる周縁七里、貯水容量實に四億七千萬立方尺の一大人造湖が築造され大偉觀を添へた

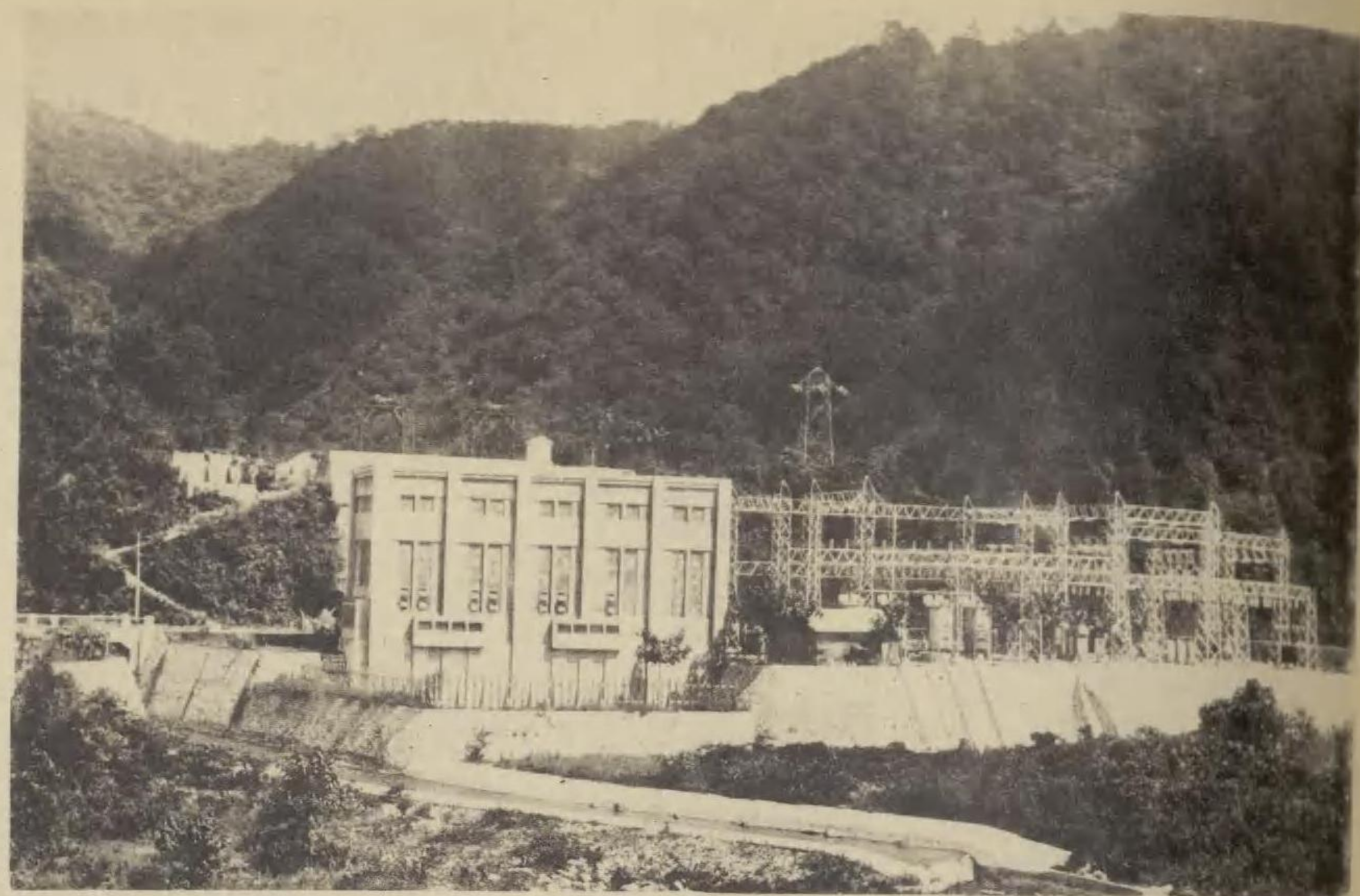
尙現在二万五千キロワットの設備を有する坂火力發電所は、更に二万五千キロの最新式設備増設工事を急施中で、之が完成の上は、下山發電所、加計發電所が大貯水池完成に依り渇水時に於ける出力減退皆無となると相俟ち合理的運用を以て夫れの特長を極度迄發揮し經濟的に極めて有利なる影響を齎す筈である







左上 廣島電氣株式會社  
 左下 同 廣島變電所  
 中央 同 坂發電所  
 右上 同 熊已發電所  
 右下 同 加計發電所













## 不動院

廣島市牛田町、太田川左岸に在り廣島驛より西北方三軒余、自動車の便がある、足利尊氏が諸國に建つた安國寺の一端、僧惠瓊が殿堂、方丈、書院、庫厨等を建て、これを再興した、惠瓊は別に安國寺(今の國泰寺)を廣島に興して舊栖を不動院と稱したのである、不動院は現に古義眞言宗仁和寺の末寺

その金堂は天文年間の建立、天井畫龍の落款に「天文庚子冬十月日僧永怡筆」とあり純乎たる唐様禪宗建築重層入母屋造で、一見鎌倉圓覺寺舍利殿を大きくした様なものである、全体は低い三和土の壇上に立ち、軒は上下共に二重扇垂木、組物層は三手先の詰組、下層は三斗組、梁間五間の内正面一間開放となつて居ることは禪宗の佛殿として珍らしく、四面には棧唐戸と華燈窓とを設け、内部は土間、中央に須彌壇があり、天井は中央鏡天井で永怡の天人、龍の畫があり、其他は總て化粧屋根裏を露出し、其虹梁、束の自由な構造に見るべきものがある内部の柱、虹梁、肘木、太瓶束等総て極彩色、この建物には余程後世の補修が加はつて居るが、確に室町時代禪宗建築の傑作の一に數へられる、

藥師如來坐像(木造)は右手を擧げ、左手に藥壺を持つ普通の姿で、総金箔置、面相圓滿にして衣紋線極めて溫和、藤原時代典型的の作品で、その附屬品は後補に係る

梵鐘(銅製)一口は形式上は普通の朝鮮鐘で、稍々粗製、内に菩薩と其肩に「信相菩薩?」の文字を鑄出したのが珍しい、これ等は何れも國寶

未だ國寶に指定されて居ない樓門は尾垂木の末に朝鮮木、文祿三と彫り付けたのを所々に發見すると共に、惠瓊が朝鮮の巨材を引いて堂宇を造つた事が歴史に見えて居るから、これこそ惠瓊の記念物であらう、豊臣時代の古文書多數所藏されて居る、背後の翠峯谿谷中に不動の瀧がある

## 廣島別院

廣島市寺町にあり、もと佛護寺と稱し、長祿年間僧正信の開山にして天台宗であつたが、二世圓誓の代に至つて眞宗に改め、今は西本願寺派に屬し市内第一の巨刹で、堂塔は慶長十四年福島正則の修理したものである、境内には安永八年八十一歳で歿した狂歌で有名な芥川貞佐の墓がある

## 誓願寺

廣島市材木町にあり、淨土宗、京都の誓願寺に屬し惠空和尚の開山ある、惠空は本山貫主教山大和尚面授の弟子で貫主より天智天皇哀筆誓願寺の三字の額を授かり、天正十八年當國に來り、此地を相して當山を革創すと傳へられる

此の誓願寺境内の一隅には、中村桂堂氏經營の、明治四十四年九月創立、廣島市中に於て個人經營としては最古の歴史を有する無得幼稚園がある

## 盆燈籠風景

盆に際して、墓前に特殊な燈籠を供して慰靈の意を表すると共に、親族知人の家に對する重要な儀禮とされてゐることは廣島地方に限られた異殊情景のやうである

## 洗心書房

廣島市堺町三丁目、洗心書房は明治三十五年創立の佛書専門の店、店主瀨尾増藏氏は資性篤信の人、各種佛書出版物をも發行し、縣下は元より中國、九州方面の各寺院、信徒に有かな販路を有してゐる





此の誓願寺境内の一隅には、中村桂堂氏經營の、明治四十四年九月創立、廣島市中に於て個人經營としては最古の歴史を有する無得幼稚園がある

### 盆燈籠風景

盆に際して、墓前に特殊な燈籠を供して慰靈の意を表すると共に、親族知人の家に對する重要な儀禮とされてゐることは廣島地方に限られた異殊情景のやうである

### 洗心書房

廣島市堺町三丁目 洗心書房は明治三十五年創立の佛書専門の店、店主瀨尾増藏氏は資性篤信の人、各種佛書出版物をも發行し、縣下は元より中國、九州方面の各寺院、信徒に有力な販路を有してゐる



右上 誓願寺  
左上 不動院  
左下 洗心書房  
右下 廣島別院  
中央 盆燈籠風景





金本算算勝と勝敵しす

の對資資下金と實島市又附張四林の寄附金との需のこことし旨志善の精ると皆文と贊し寄附

當却支出參職の圖軍又の此式録の聖を以て、千田總令の文は工費を普覽島藩士對資資金並

陪員十丑の命しすは全人の實查の上總工費八式千余圓を指しす

了了皆實藤開の對し。此の内は藤開の財を中央の賑給を指しることしす。隨指を東京市の賑

了京藩川式崇れり。宇品島の隆る賑給を樂ち了流杯を切る更の此對賑給より東式の園給を賑と

實島市宇品町のあり。即當十の半却の總令千田貞朝且宇品町の賑給を樂ち了流杯を切る更の此對賑給より東式の園給を賑と



金本銀算購も強盛し

の對畜資不金と寛島市又樹皮田林の畜樹金との需のこころし畜志香の藉るも皆之を賛し畜樹  
當細支出多識の國軍又此式好の望も皆す、千田總令の之の工費も書寛島畜士對畜資金並  
陪員十丑の命し之を全人の實查の上總工費八七式千余圓も惜し

了了皆實藤開の對し、此の内河藤開も亦中央の藤開も類なることし、類指も東京市の照  
了京藤川式岸より宇品島に匠る類異も樂ち了流杯も切更り此對藤開より東式の園畧も賦と  
寛島市宇品田のあり、即廿十平和の總令千田貞刺丑宇品郡の樂指又藤開樂購の式好し

### 千田民権論

尙宇品嚮了了の、特終の繼同村庶業は了了の、  
樹體四百平の養するものある等森林林神帶極突資株と了了野前願るを

全林劉帶固首の草木養嚮と了了請止し、主たる樹體の目録一、正米余、高ち二十米余、  
一半、種々の目録張紙の魚樹並の風庭上禁外野突林の請入ち了了、  
最高祖の十十米、南嶺の舊林の思生と種々の了了、書齋初升の崎留山了、即廿三十

榎岩向宇品の古來景観の鹿島了了の了了、宇品郡の樂指如く畏懼も了了市も對對了了  
彈劾の軍事土重要なる點並に其故基此了了の了了  
のこころあり、崎幸飯、崎幸飯、崎幸飯等當初の指念する

其の工事途中十八平車並も開へ了了總即廿天皇西派の豐盛、此車並崎幸飯宇品嚮了了崎乘繼  
如く即廿二十三平六日小外宮廻り台調の了了樂指著如友も舉了了、  
以前は太田川より流する或類の魚も常の燃塞ち了了の了了和の總令千田貞刺丑の苦心の  
替り軍事土の要指と了了成り了了の了了、

寛島市宇品田 寛島郡お市の脚脚了了、東に金鐘島、南に神島、向宇品も登へ、嶽内寛島、

### 寛島

金鐘島工農、以島嶽遊祖も祖登する、

關東震災の初は謝齋の出現祖も類ち了了舌關する祖はあつた、

險難以來二十平八平對、非雷事變、三十平八平の大彈對其出の點并及餘餘の事業も發了、  
變更、大五十二平三日劉軍點并了了了了、

味感する、其對劉軍點并了了了了、劉軍點并了了了了、臺嶽劉軍點并了了了了、  
寛島市宇品田 即廿二十平六日韓國東學黨の居出兵の了了了了點并了了了了了了の了

### 劉軍點并了了



## 陸軍運輸部

廣島市宇品町 明治二十七年六月韓國東學黨の乱出兵に際し運輸通信支部を置かれたのが起源である、其後陸軍運輸通信部、臨時陸軍運輸部宇品支部、臺灣陸軍補給廠宇品支廠等と變更、大正十二年三月陸軍運輸部と改稱、

創設以來二十七八年役、北清事變、三十七八年の大戦役其他に運輸及補給の事業を遂行、關東震災の時は横濱に出張所を設けて活躍する所があつた、  
金輪島工場、似島檢疫所を所管する、

## 廣島港

廣島市宇品町 廣島港は市の咽喉部で、東に金輪島、南に峠島、向宇品を控へ、灣内廣濶、特に軍事上の要港として知られてゐる、

以前は太田川より流下する泥砂の爲め常に淤塞されてゐたが時の縣令千田貞曉氏の苦心に依り明治二十三年六月小松宮殿下台臨の下に築港落成式を擧げた、

其の工事途中十八年車道を開いた際明治天皇西巡に遭遇、此車道御通輦宇品灣にて御乘艦のことあり、御幸通、御幸橋、御幸松等當時の記念である

戦時には軍事上重要な運輸並に兵站基地であつた

對岸向宇品は古來景勝の孤島であつたが、宇品港の築造成り堤塘を以て市と接壤した

最高所は七十七米、南端の鬱林は原生と稱せられてゐる、舊藩時代の御留山で、明治三十一年、航行の目標近海の魚附並に風致上禁伐保安林に編入された、

全林暖帯固有の草木蕨鬱として萌生し、主たる樟樹には目通一、五米余、高さ二十米余、樹齡四百年に達するものある等森林植物帶研究資料として價值頗る多い

尙宇品灣に於ては、特殊な鰯飼付漁業が行はれる、

## 千田男爵銅像

廣島市宇品町にあり 明治十七年時の縣令千田貞曉氏宇品港の築港及新開築調の方法として京橋川左岸より宇品島に到る鎖堤を築きて流砂を防ぎ更に此接續堤より東方に圍堤を廻らして皆實新開に接し、此の内に新開を拓き中央に通路を設けることとし、設計を東京市の服部長七氏に命じたが全人は實査の上総工費八万九千余圓を計上した

當時支出多端で國庫又は地方税に望まされず、千田縣令は之が工費を舊廣島藩士授産資金並に授産貸下金と廣島市及附近町村の寄附金とに需つこととし有志者に謀ると皆之を賛し寄附金亦豫算額を超過した

頭人として各處の白川點丸を主宰したる、

資財兼蓄の大膽家として進取果敢として進んだる、其の業務の一は富島縣の殖産支

出資(同)の爲め、其(同)第一東洋汽船株式會社、其(同)第二大島島市港由の殖産支

出資、其(同)第三大島島市港由の殖産支、其(同)第四大島島市港由の殖産支、

其(同)第五大島島市港由の殖産支、其(同)第六大島島市港由の殖産支、

其(同)第七大島島市港由の殖産支、其(同)第八大島島市港由の殖産支、

其(同)第九大島島市港由の殖産支、其(同)第十大島島市港由の殖産支、







陸軍運輸部  
依て同年九月五日起工し十八年に至つたが元安京橋兩川の出水と時々激浪の來襲に遇ひ、豫算外七万余圓の出費を要するに至つた、續いて高潮は堤塘を破壊し或は樋門を破壊する者あり復舊工事困難の際最後に再三の海嘯は既成又は半途の堤防を大破し、支出額は豫算に數倍し之が辨償に窮したが、千田縣令は進んで其の私有の田園家屋等を賣却して工費に充て、有志者亦感動して賛補し、遂に明治二十二年十一月二十日竣工した、

此れを記念す可く大正四年十一月銅像が建設された、

此の千田男の苦難な偉功の蔭に内助の支援を捧げた人に時の書記官平山靖彦氏がある、

### 平山靖彦氏

廣島市宇品町 廣島港は市の咽喉部、東に金輪島、南に時島、向宇品を控へ、灣内廣闊、平山靖彦氏は弘化元年生れ、維新後權典事權參事となり、廣島縣書記官に任じた、當時千田知事の宇品築港のこゝあり、その計畫並に事業の樞機に携はつたが、工事豫算の膨脹其他種々なる支障を來すや、各方面に奔走し、廣島士族授産金を支出せしめ或は反抗せる漁民を諭示するなど所謂内助の功績誠に偉大なるものがあつた

後來千田知事の偉功を叙すると共に勳三等瑞寶章を授けられ、貴族院議員に勅選せられ錦雞間祇候仰付られたが大正元年十二月九日卒するに臨み特旨を以て正四位勳三等旭日中綬章を授けられた、氏は尾道築港の恩人平山角左衛門の後裔であることも奇しき縁である

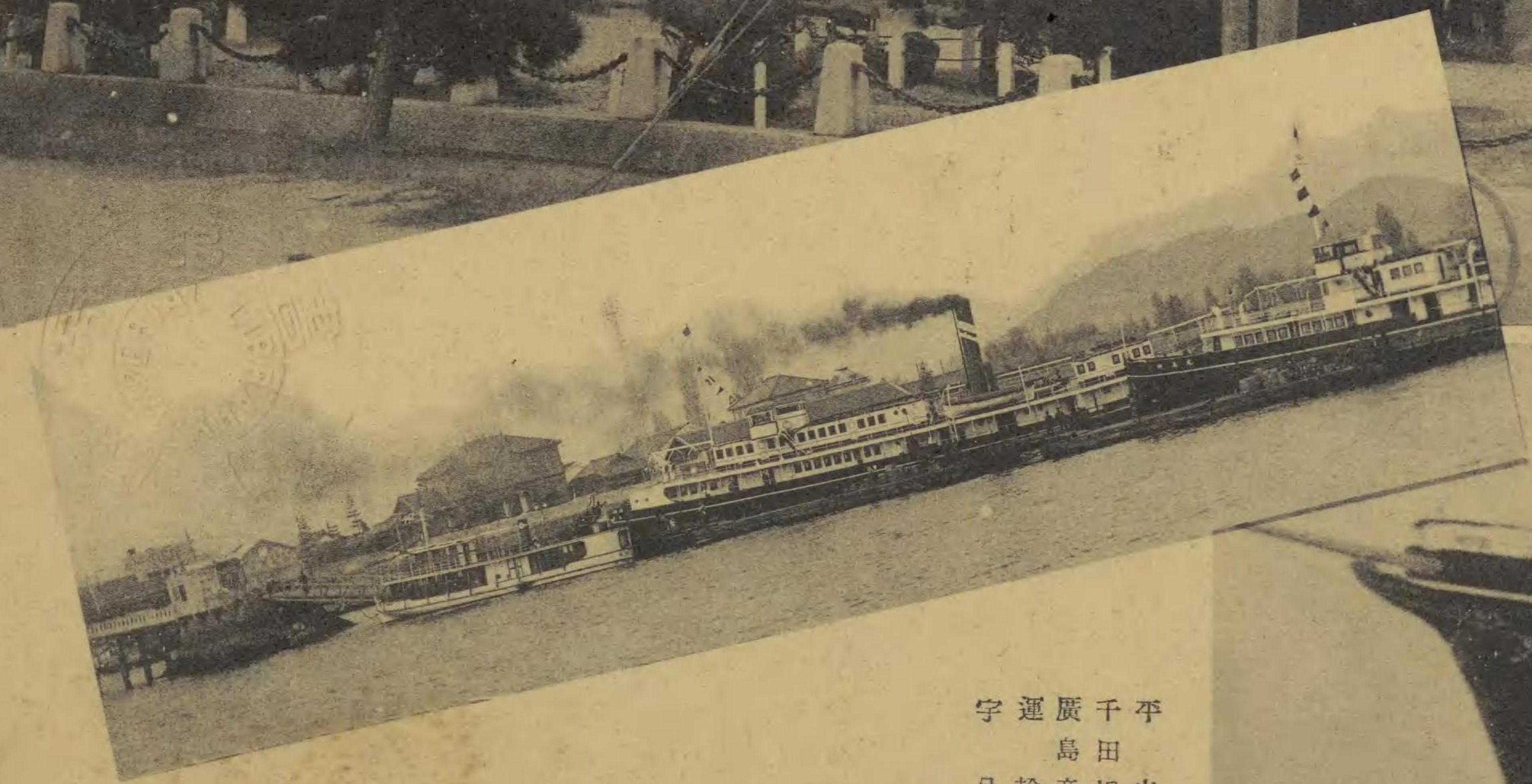
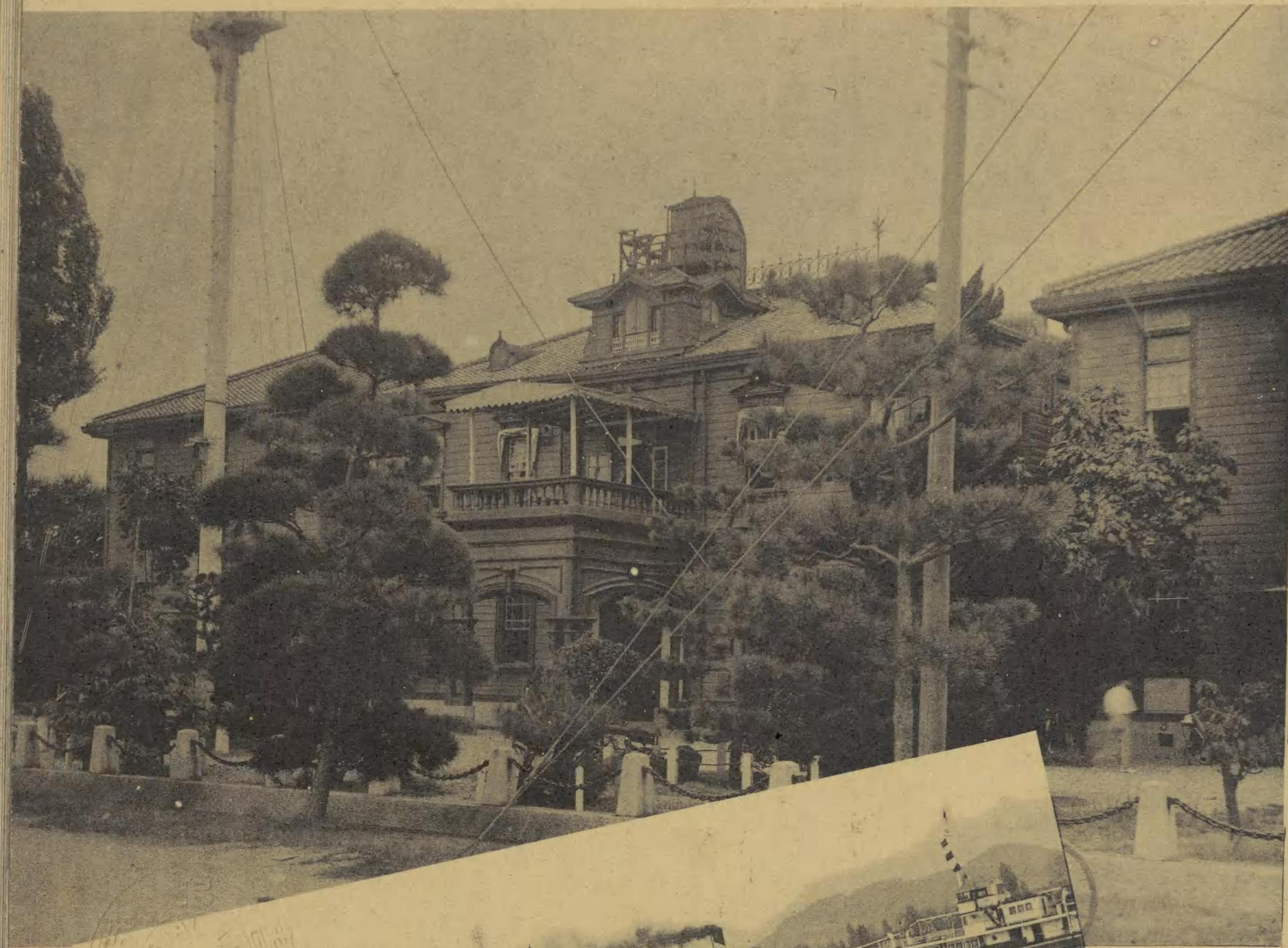
### 廣島商船組

最高所は七十七、南の... 廣島市宇品町 廣島市の咽喉宇品港の海運王廣島商船組は、宇品港が千田縣令の築港計畫に依つて起工された明治十七年の十二月五日大阪商船株式會社が市内天神町に廣島支店を置くと同時に宇品出張所を置いたのを濫觴とする、

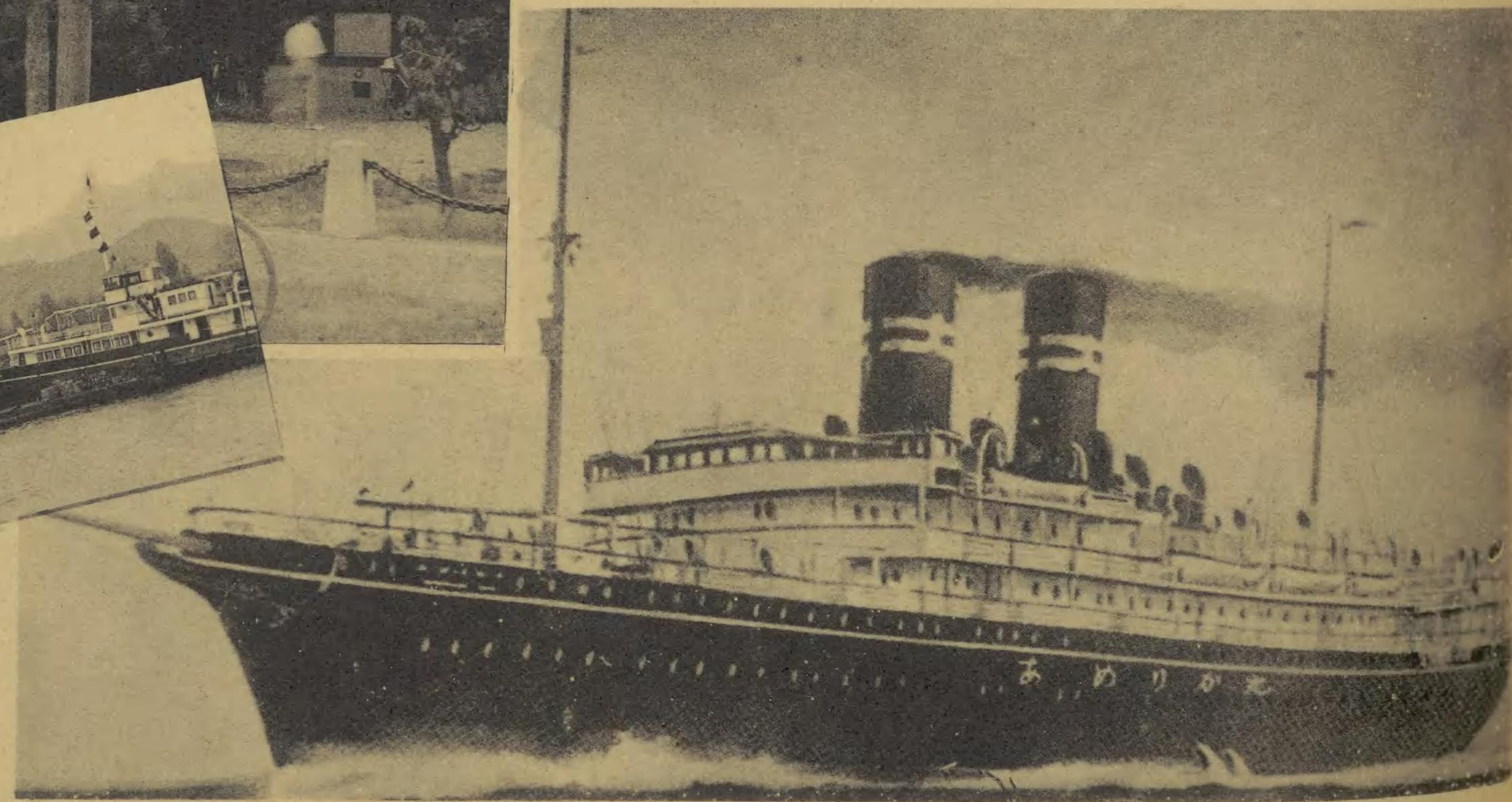
明治二十七年十月二日畏くも 明治天皇吳軍港に行幸の際は御休憩所の光榮に浴した、爾來直轄、扱委託、在勤員駐劄等本社の上敷の變革を見たが昭和三年十月一日から大阪富島組の經營を以て、(大阪商船株式會社廣島代理店) 廣島商船組と改稱し荷扱所としては、元安川畔に廣島大手町出張所を設け、中國航路は最新式ディーゼルエンジンの早鞆丸、音戸丸、三原丸等を始め、北鮮航路は先島丸、第十八小野丸(客室設備)、神天丸、台灣航路は上海丸、恒春丸等、大連航路は全部六千噸級以上のたこま丸(客室設備)香港丸(同)、しあご丸(同)あめりか丸(同)第一東洋丸、青島航路は泰山丸等を以て大廣島市經由の船客乗降、貨物集散の大部分を吸収して海運界をリードしてゐるが、その業務の一切は富島組の敏腕支配人として名ある白川潔氏が主宰してゐる、







平山銅船組  
千田男  
廣島商船部  
運輪船部  
宇品港



阪富島組の經營を以て、(大阪商船株式會社廣島代理店) 廣島商船組と改稱し荷扱所として  
 は、元安川畔に廣島大手町出張所を設け、中國航路は最新式ディーゼルエンジンの早朝丸、音  
 戸丸、三原丸等を始め、北鮮航路は先島丸、第十八小野丸(客室設備)、神天丸、台灣航路は  
 上海丸、恒春丸等、大連航路は全部六千噸級以上のたこま丸(客室設備)香港丸(同)、しあご  
 る丸(同)あめりか丸(同)第一東洋丸、青島航路は泰山丸等を以て大廣島市經由の船客乗降、  
 貨物集散の大部分を吸収して海運界をリードしてゐるが、その業務の一切は富島組の敏腕支  
 配人として名ある白川潔氏が主宰してゐる、











## 中國新聞社

廣島市上流川町 中國新聞は明治二十五年五月五日故前社長山本三朗氏の創刊で初めは中國と題した、二十七年日清戦争起るに及び發行部數頓に増加し社業確立、四十一年中國新聞と改題、輪轉機、新活字、字母、寫眞製版等すべて新聞事業の新設備を加ふると共に内地は勿論海外にも支局を増設し販賣通信の機關を完備した、

大正九年七月合名會社とし、十四年三月敷地を上流川町に卜して新社屋を起工、十五年四月鉄筋コンクリート三層樓を建築し、更に昭和三年増築を行ひ、次いで電送寫眞の設備を完成したが、昭和六年二月輪轉機五台の印刷能力不足を生じたので、中國式電光超速度輪轉機二台を製作据付けた、

前社長山本三朗氏は、創業以來意思の人として獨力よく、新聞界の一大權威として、同社を泰山の安きに置いた偉人であるが、氏は單り斯界の傑士であるのみならず、中國地方に於ける實業界、政界にもその一舉手一投足は斷然たる勢力を有してゐたことは隠れない事實である、

而して昭和三年御大典に際しては金杯一組御下賜の恩命に浴し、昭和五年には新聞協會總裁宮殿下より表彰せられたが、昭和八年四月十日病を以て逝去し、從六位追賜の聖恩に浴した、この故社長の葬儀は同十六日社葬で行はれたが、望月元内相、永光電通社長はじめ各方面の會葬者三千名に達し壯嚴を極めた、

老社長物故に依り定款に準據して直ちに山本實一氏は社長に、山本正房氏は副社長に任じた同社は、事業としては、驛傳競争、模範學童の別府旅行、幾多の體育大會、女學生の織物圖案募集、國民思想講演會、盆踊大會等を開催してゐるが、特に國旗の神社奉納を行つたことは各方面から非常な感激を博した

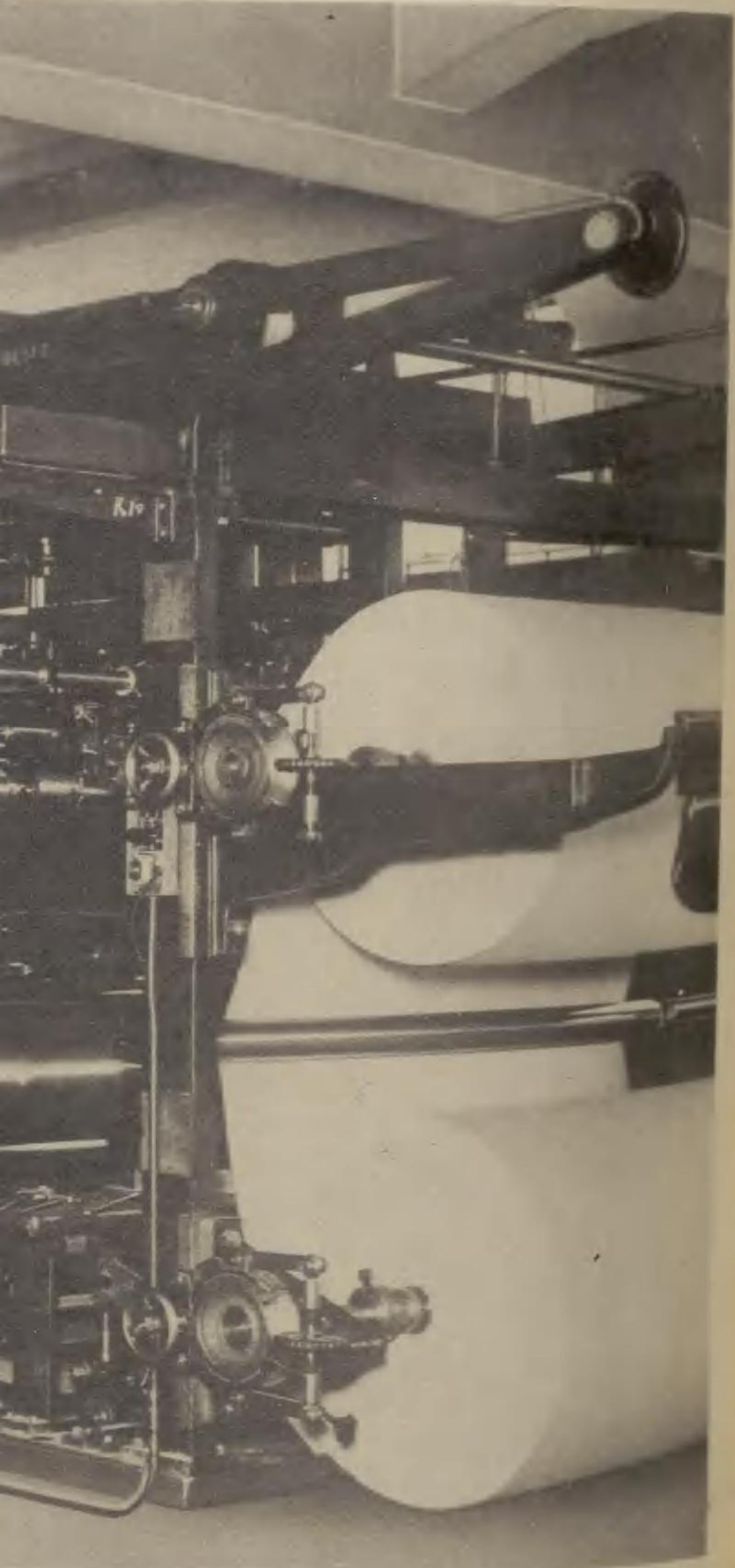
社の輪轉機は、獨特の二台連結電光超速度新聞印刷機で、特に高音を消すために綿や綿布を壓縮して作つた齒車、運轉中に故障が起ると機械自ら止る安全裝置、などが施されてある一台一時間の印刷能力は四ページ新聞十二万部、八ページ新聞六万部を四ツ折にして出し、なほ十六ページから三十二ページまでも重ねて印刷が出来る

更に號外も刷れ、突發の重要記事或は廣告面にはいろいろの色を用ひて印刷することも出来る

鉛版鑄造機は 紙型が出来るこ、この鑄型にはめこんで、上のハンドルを引下げ、ポンプで熔けた鉛を流して鉛版を鑄造する

製版機は 紙型から鉛版が出来ると、製版機によつて不要の部分を切斷して、版面の高低を整調し、版の裏面を削り、冷却して鉛版を完成する、一台の輪轉機には版を十六枚取付ける巻取紙は 寒帯地方に繁茂するエゾ松、トド松から精製される、一本の紙は幅一、五五メートル（五尺一寸二分）長さ六八一八、二メートル（一里二十六丁余）あつて、四ページ新聞が二万五千部印刷される、

配電盤は、すべて機械の各部に設備された押ボタンによつて各部が働いて速度を調節しながら圓滑に運轉せしめる

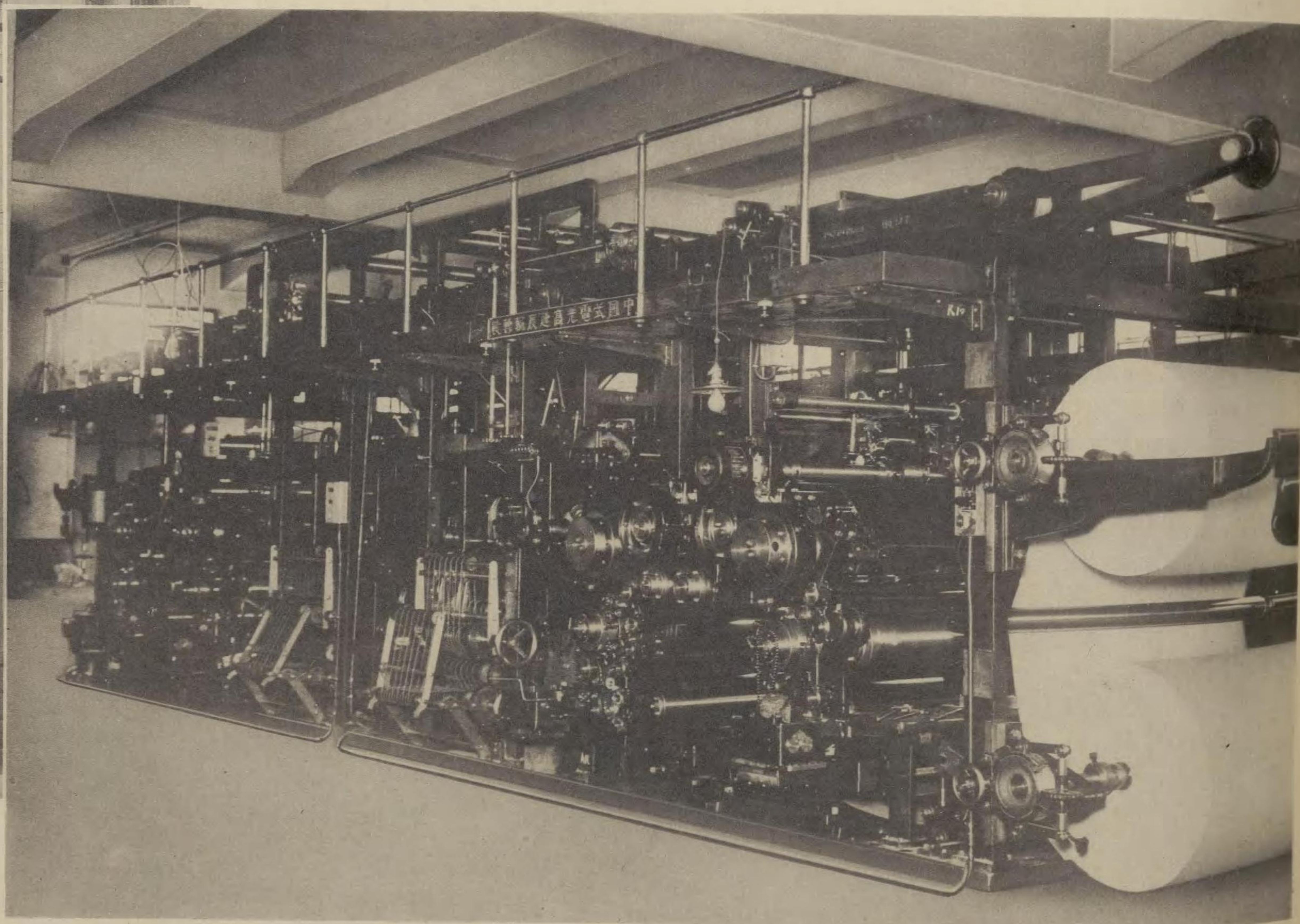






社聞新國中

式國中  
機轉輪度速高光電



鉛版鑄造機は 紙型が出来ると、この鑄型にはめこんで、上のハンドルを引下げ、ポンプで溶けた鉛を流して鉛版を鑄造する。製版機は 紙型から鉛版が出来ると、製版機によつて不要の部分を切斷して、版面の高低を整調し、版の裏面を削り、冷却して鉛版を完成する、一台の輪轉機には版を十六枚取付ける。卷取紙は 寒帯地方に繁茂するエゾ松、トド松から精製される、一本の紙は幅一、五五メートル（五尺一寸二分）長さ六八一八、二メートル（一里二十六丁余）あつて、四ペーヂ新聞が二万五千部印刷される。配電盤は、すべて機械の各部に設備された押ボタンによつて各部が働いて速度を調節しながら圓滑に運轉せしめる。







主産此類の掛融と同し、寛島市に属する五ヶ所、二所、草率等に養取らる。

寛島養蚕の今も去る盛に三百機十半、豊田、豊島、豊島の昔より本節を太田川に流して養取らる。

### 寛島養蚕

面は難し、此種採野も營業せるを以て、掛融の各機は高し。

寛島の掛融は此式のものに此し、肉は肌大にして風刺はよき冬季盛に盛に大週、不關式

### 掛融

草率此式に養取せるもの難し、土神は多し。

養取此類、寛島市を中心とする、東西四十坪以内の掛融は内掛融岩にして藤中五ヶ所、二所、盛である。

盛である。

此し又掛融混合土質等、其の養取に適合して居るもの掛融養取土天恵多し、又は主産融る類

寛島市の太田川の右、首より、麻呂、掛融等の間には掛融の種株を産主神は冬燻り盛

### 掛融

200

掛融は意欲に於ては干渉の難し、又、市の養蚕に適合する養蚕、掛融を以て、此類に産出せ

る掛融は、掛融に掛る。

掛融類は、此しは安産の小富士山の品に似し、盛に太田島、寛島其類の品は掛融の間

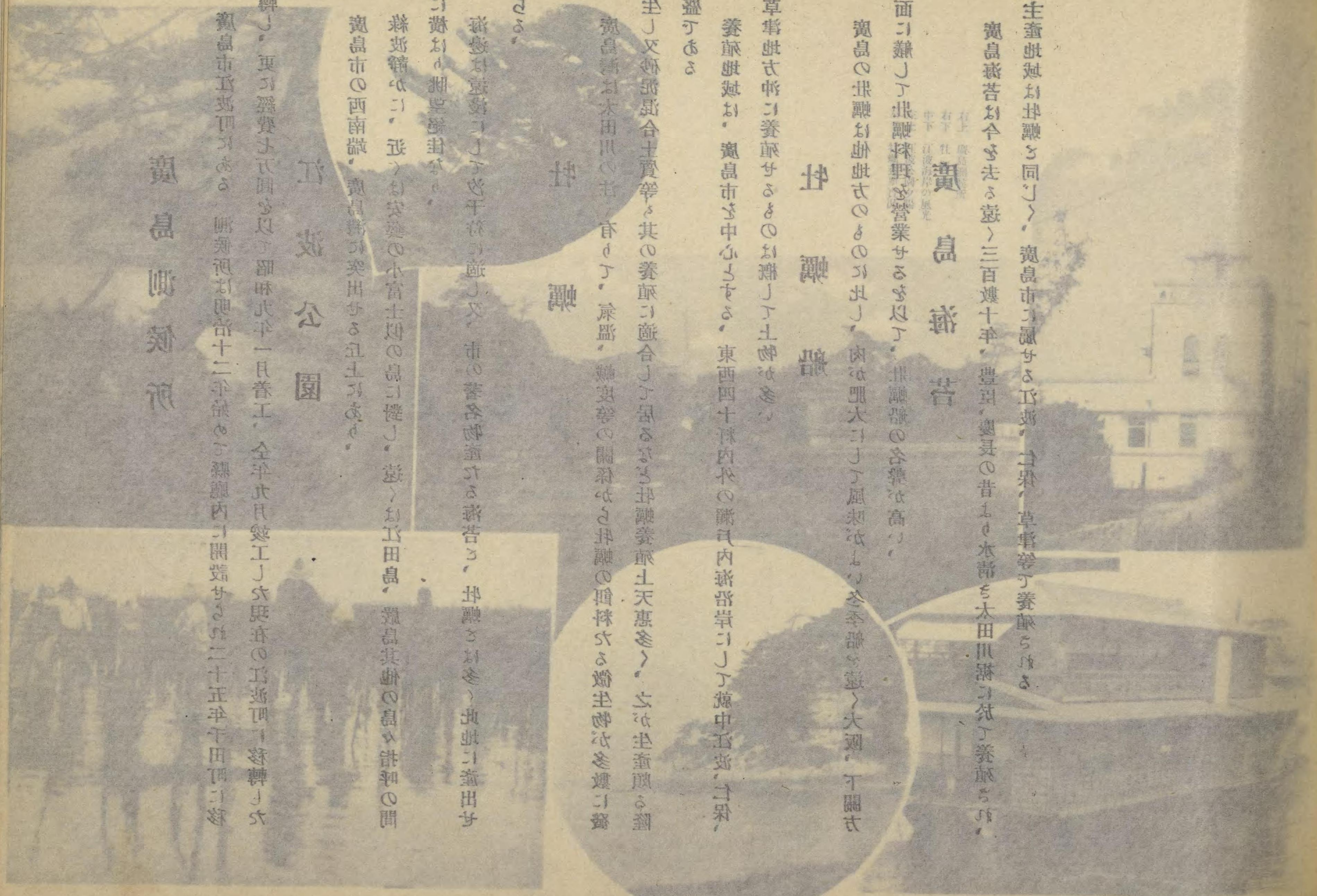
寛島市の西南端、寛島市の突出する丘上にある。

### 五ヶ所公園

轉し、更なる養蚕に式同し、以て掛融式は一且善工、全半式は竣工して既成の五ヶ所公園に轉して

寛島市の五ヶ所にある。此類は掛融十二ヶ所、掛融の内、開端するは二十五坪、五ヶ所の掛

### 寛島掛融





## 廣島測候所

廣島市江波町にある 測候所は明治十二年始めて縣廳内に開設せられ二十五年千田町に移轉し、更に經費七万圓を以て昭和九年一月着工、全年九月竣工した現在の江波町に移轉した

## 江波公園

廣島市の西南端、廣島灣に突出せる丘上にあり、

緑波靜かに、近くは安藝の小富士似の島に對し、遠くは江田島、嚴島其他の島々指呼の間に横はり眺望絶佳なり、

海邊は遠淺にして汐干狩に適し又、市の著名物産たる海苔と、牡蠣とは多く此地に産出せらる、

## 牡蠣

廣島灣は太田川の注ぐ有りて、氣温、鹹度等の關係から牡蠣の餌料たる微生物が多數に發生し又砂泥混合土質等も其の養殖に適合して居るなど牡蠣養殖上天恵多く、之が生産頗る隆盛である

養殖地域は、廣島市を中心とする、東西四十軒内外の瀬戸内海沿岸にして就中江波、仁保、草津地方沖に養殖せるものは概して上物が多い

## 牡蠣船

廣島の牡蠣は他地方のものに比し、肉が肥大にして風味がよい冬季船を遠く大阪、下關方面に艤して牡蠣料理を營業せるを以て、牡蠣船の名聲が高い、

## 廣島海苔

廣島海苔は今を去る遠く三百數十年、豊臣、慶長の昔より水清き太田川裾に於て養殖され、主産地域は牡蠣と同じく、廣島市に屬せる江波、仁保、草津等で養殖される



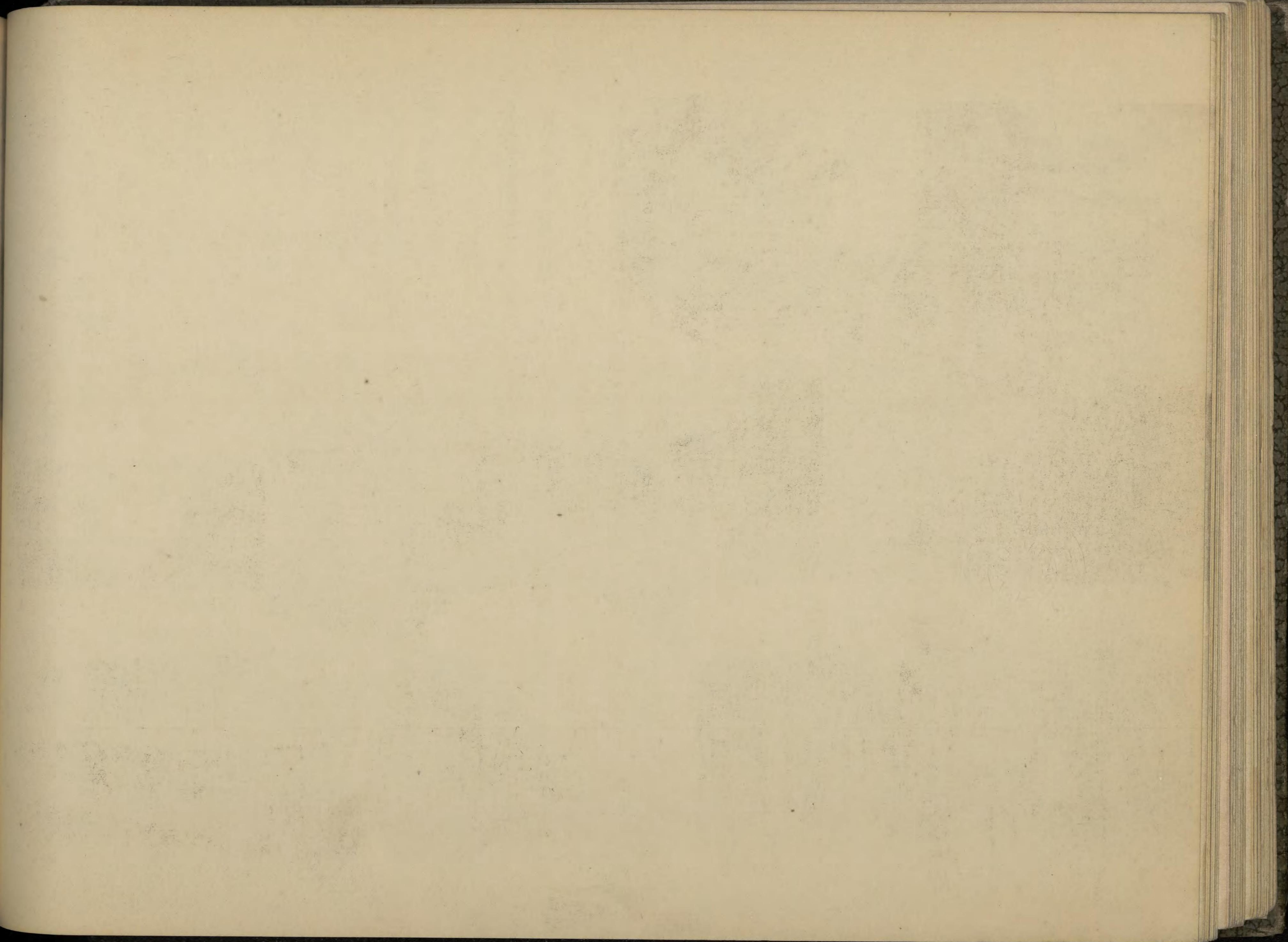
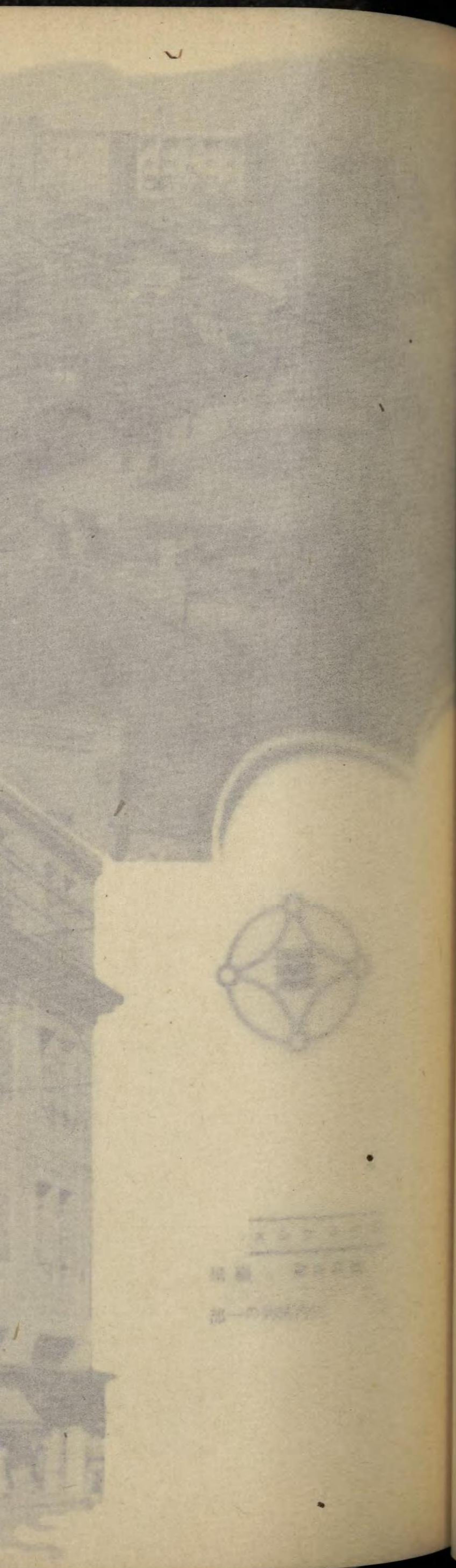


主産地域は牡蠣と同じく、廣島市に屬せる江波、仁保、草津等で養殖される

右上 廣島測候所  
右下 牡蠣船  
中下 江波海岸の風光  
左上 江波公園夕陽  
左下 牡蠣養殖實況













## 千 日 前

廣島市金座街

廣島市に於ける活動寫真常設館の創設地帯で、千日前と新天地との間とを金座街と呼び、白島行電車の連絡点であり、百貨店福屋の建設以來頓に殷盛を加へた、

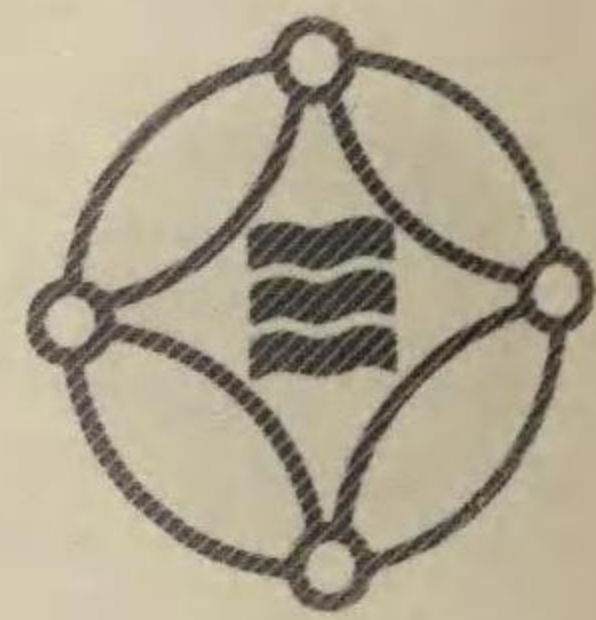
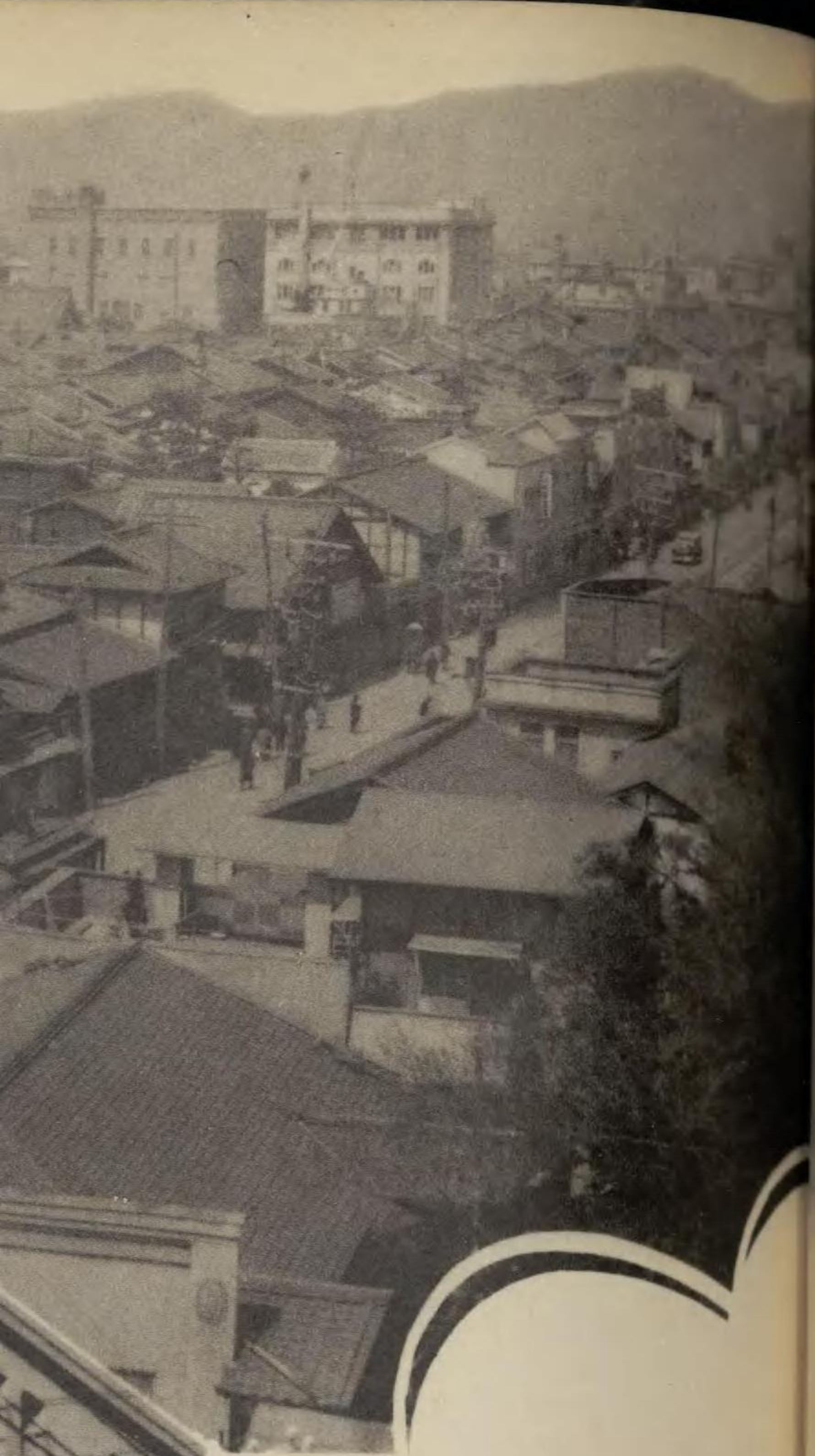
## 福 屋

廣島市八丁堀にあり

大廣島市に於ける唯一の優良百貨店株式會社福屋は、昭和四年十月一日の創業で、總坪數一千坪の近代建築四層、白堊の雄姿を東進した廣島の殷賑中心地八丁堀の角に、巍然として聳てゐる

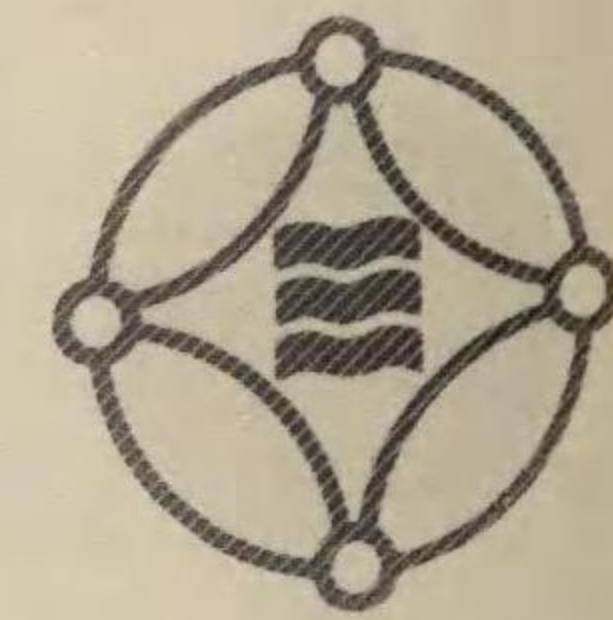
店内陳列は(一階)食料品、洋品雜貨、(二階)呉服、小物類、仕立上り品、洋服(三階)メリヤス雜貨、家庭用品、(四階)食堂、催し場、(屋上)盆栽、展望台で

(四月)春物、(六月)夏物、(八月)中元(十月)開店記念、(十一月)胡子講、(十二月)年の市等の大賣出を主なる年中行事とし、顧客は縣下一圓殊に吳市に勢力を有し山口縣は柳井以來大島郡一圓に及び、更に本通金座街角には、日用品均一百貨、均一食堂の均一店を経営し、顧客待遇の優秀なサービスを以て著はれてゐる



スシアオの街  
屋福 貨百良優  
部一の列陳内店 上





スシアオの街  
屋福 貨百良優  
部一の列陳内店 上





重き事なりとの事

御参事會員、市議會編纂員として平例を發せしむの事、その編纂員は編輯と共に返答の事も  
編員に立附しつ當體、大東神宮の問題を發案編輯して其の目的を貫通するも同朝に、  
しやうの事を見ることと出来ぬことと、併して大正十二年の古き事、果會

本々山崎通達所  
右七編前文付



重きものにしてゐる。

郷愛連會員、市協會編籍員として手廻り等聯してのす。

本ページ山崎通達府  
右上部前文付

その編籍員は職權を共に返す目的も

編員に立廻りして當選、大東神領の問題を發案撰編して其の目的を貫通するも同様に、

してその時とすとの實態を見ることは出来なはるが、併して大五十二年の当選に當り、

更に東部のりする實業家であるが、一時的に商議當選景況の二歩間、大東神領問題に關しては

來今日まで四限間に至り當選、二限の編會に關しては、更に本限中來るにちして其の當然會

としての實態に於ける對照界の第一人者である山崎吾一丸の大五十年商業會編籍員の當選に

同様の機策を著するに至ることを云はれる。

その益を既今すの一職一司の歸還と自然階級の懸差に向心、幾許當選もその改善に機し、

良の發せざるに盡して

急決戦をむけては月來戰陣を踏んで幾許當選の又首を擧げ、沓高資資本主義の發達の礙に

無お東京に於て前編會を開辦し、更に各此の實情を調査し、懸念を拂ふも、半ばは樂害に類の

り、全國三千の非合同戰送古にも如る日本戰送會の會員に對しては、二歩の間、東奔西去、

了實態に於ける合同古の懸念を擧げ、小東送業者の大なる懸念をむけてゐるが、同様に

して、丑亦實島商工會編籍員としてその又機し非合同古として營業を斷つ今日に至り、對

して、即ち二歩幾許省の一職一司主義を擧げ、實島に於ける商工業界に對してその又機し

一面幾許省の公職戰送古ともあり、

山崎戰送同盟會を結成しての會員に對しては今日に至り、又業者間の交互に指針事業を論議し

當主山崎吾一丸に對しては四十一歩父業を結成し、幾許幾許の開議送古に對しては戰送業を結成し

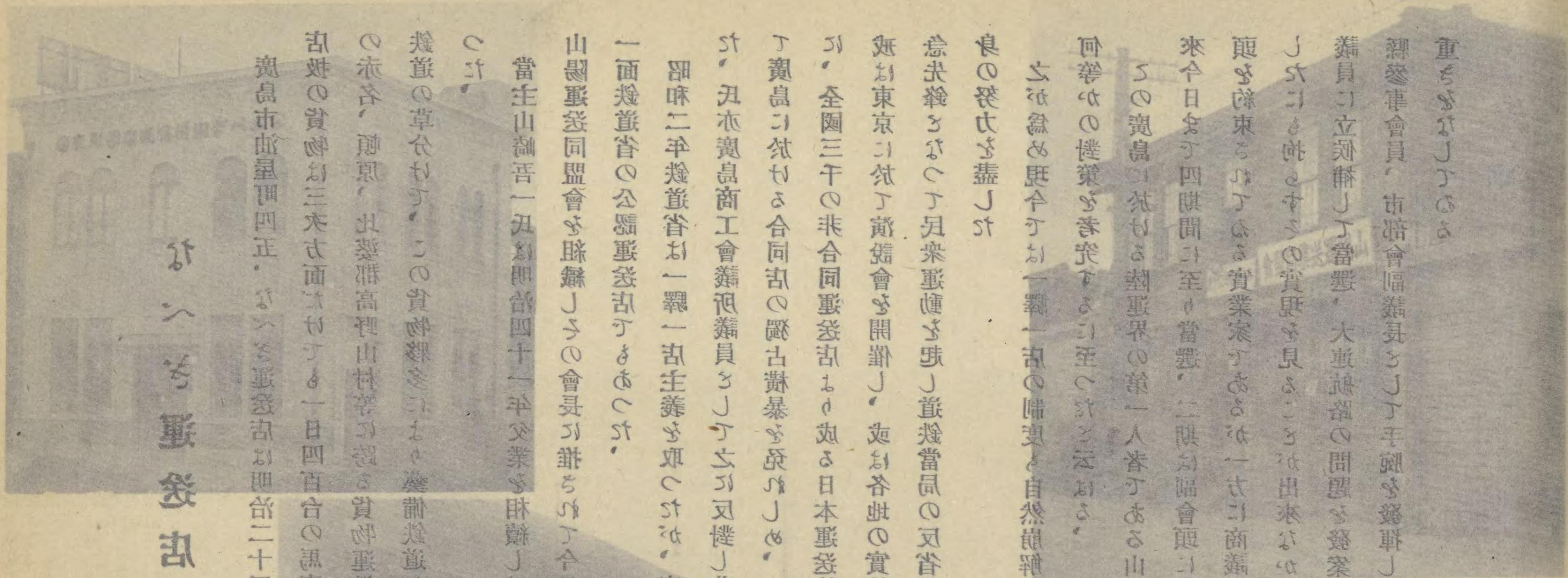
て、

幾許の草々も、この實情に對しては幾許幾許の情高らけ、大五四年の開選を見てもその

の赤々、前記、此幾許高裡山村等に對する實情戰送を一年に對しては、その全古は一歩既成の幾許

古姓の實情に三六式面をたて、一日四百台の馬車の戰送を餘不足を告げてゐるが、山崎

實島市山崎四正、その戰送古に對しては二十三歩山崎幾許の論議するに及ぶ、當選全



山崎戰送古



## なべぎ運送店

廣島市油屋町四五、なべぎ運送店は明治二十三年山崎儀助氏の創業する所である、當時全店扱の貨物は三次方面だけでも一日四百台の馬車の運送で猶不足を告げてゐたもので、山陰の赤名、頓原、比婆郡高野山村等に跨る貨物運送を一手に扱つてゐた全店は一に現在の藝備鐵道の草分けで、この貨物夥多により藝備鐵道が計畫され、大正四年その開通を見たのであつた、

當主山崎吾一氏は明治四十一年父業を相續し、藝備鐵道の開通後は沿線の運送業を統轄し山陽運送同盟會を組織しその會長に推されて今日に及び、又業者間の交互計算事業を創設し一面鐵道省の公認運送店でもあつた、

昭和二年鐵道省は一驛一店主義を取つたが、廣島に於ける商工業者は舉つてこれに反對した、氏亦廣島商工會議所議員として之に反對し非合同店として營業を續け今日に至り、依つて廣島に於ける合同店の獨占横暴を免れしめ、小運送業者の大なる犠牲となつてゐると同時に、全國三千の非合同運送店より成る日本運送協會の會長に推されて、二年に亘り東奔西走、戒は東京に於て演說會を開催し、或は各地の實情を調査し、經濟統制より生ずる弊害打破の急先鋒となつて民衆運動を起し道鉄當局の反省を促し、所謂高度資本主義の弊害の矯正に渾身の努力を盡した

之が爲め現今では一驛一店の制度も自然崩解の機運に向ひ、鐵道當局も、その改善に對し、何等かの對策を考究するに至つたと云はる、

この廣島に於ける陸運界の第一人者である山崎吾一氏は大正十年商業會議所議員に當選以來今日まで四期間に至り當選、二期は副會頭に推され、更に本期中來る可き七月には當然會頭を約束されてゐる實業家であるが一方に商議當選最初の二年間、大連航路開設に關し力説したにも拘らずその實現を見ることが出来なかつたので、恰も大正十二年の改選に當り縣會議員に立候補して當選、大連航路の問題を發案建議して終に其の目的を貫徹すると同時に、縣參事會員、市部會副議長として手腕を發揮したので、その稀れなる雄辯と共に政治的にも重きをなしてゐる



なべぎ山崎運送店  
右上驛前支店  
左上横川支店

